

---

# 香取市の地域経済循環分析

## 目次

---

1. 地域の概況
2. 生産
3. 分配
4. 消費
5. 投資
6. 結果の概要
7. 詳細分析の概要
8. 対策の検討

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

# 1. 地域の概況

- (1) 歴史・自然条件
- (2) 人口関連データ
- (3) 就業関連データ
- (4) 職住比

5

## (1) 歴史・自然条件

### 分析の視点

- ✓ 地域の歴史・自然条件は文献調査等により整理を行い、定性的に地域の特徴を記述する。
- ✓ まちの成り立ちや産業構造の形成に影響した出来事等を記述する。

### 地域の歴史

- ✓ 香取市は2006年に、佐原市、香取郡小見川町、山田町、栗源町の合併によって誕生した。
- ✓ 古代より香取神宮が下総国の一宮として鎮座しており、市域は門前町として栄えていた。
- ✓ 江戸時代には、佐原地区、小見川地区は利根川水運の発達により、年貢米の津出し場や周辺地域の物資の集散地として栄え、醸造業などの産業も発展した。
- ✓ 伊能忠敬が50歳になるまで過ごした、ゆかりの地としても知られる。
- ✓ 古くから利根川水郷の早場米名産地として知られており、県内第一位のコメ生産量を誇る。また、香取市の畑作地の土壌である関東ローム層はサツマイモの栽培に適していることから、古くからサツマイモ栽培が盛んである。
- ✓ 7月と10月には、国の重要無形民俗文化財に指定されている「佐原の大祭」が盛大に開催され、8月には関東でも有数の歴史と規模を誇る「水郷おみがわ花火大会」が開かれている。
- ✓ 鉄道はJR成田線と鹿島線、高速道路は東西に東関東自動車道が走っている。また、成田空港から15km圏にある。

### 地域の気候・自然条件

- ✓ 千葉県の北東部に位置し、北部は茨城県と接している。東京から70km圏、千葉市から50km圏にある。
- ✓ 北部には水郷の風情が漂う利根川が東西に流れ、その流域には水田地帯が広がっている。南部は山林と畑を中心とした平坦地が北総台地の一角を占めている。

6

## (2) 現在の人口規模と将来動向

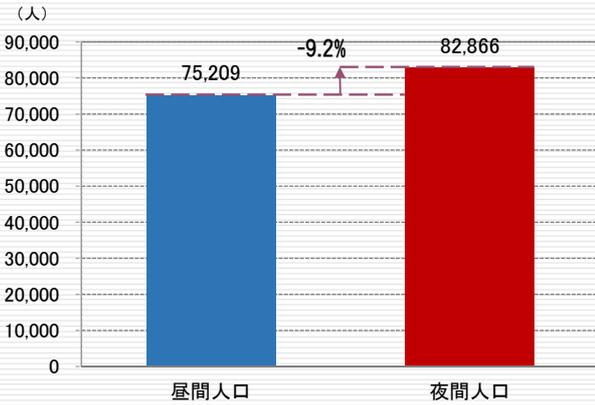
### 分析の視点

- ✓ 地域の消費や生産は、地域の人口に大きく影響を受けるため、現在及び将来の人口規模を把握する。
- ✓ ここでは、まず夜間人口と昼間人口を比較し、通勤・通学者による流入・流出状況を把握する(下図①)。流入超過の地域は、域外からの通勤者への所得の支払いを通じて雇用者所得が流出している可能性が高い。
- ✓ また、将来の推計人口を含めて時系列で人口の推移を確認することで、将来の地域のすがたを把握する(下図②)。

夜間人口の方が昼間人口よりも多く、通勤者・通学者が域外に流出しており拠点性が低い地域である。

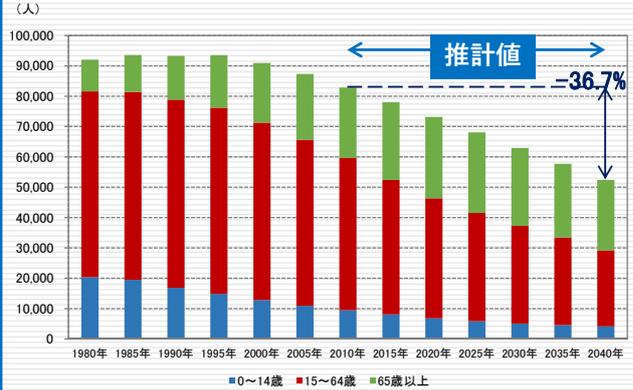
夜間人口は1995年以降減少し始め、2040年には対2010年比で36.7%減少すると予測されている。

①夜間人口・昼間人口(H22)



出所:総務省「平成22年国勢調査」より作成

②夜間人口の推移(2015年以降は推計値)



出所:総務省「平成22年国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」より作成

## (2) 現在と将来の年齢別の人口構成

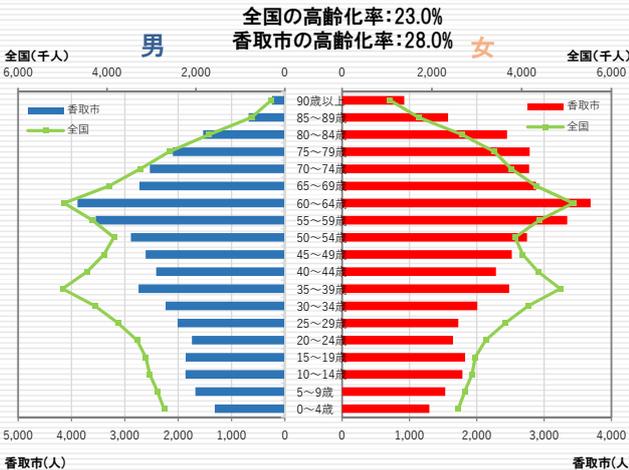
### 分析の視点

- ✓ 地域の住民が高齢化すれば、消費するモノやサービスが変化する。また所得の減少により消費が減少するため、従来の業態では商売が成り立たず地域の商店街の衰退等に繋がる可能性がある。
- ✓ ここでは、人口ピラミッドから現在と将来の年齢別の人口構成を把握する。

2010年では住民の約3.6人に1人が高齢者(65歳以上)である。高齢化率は全国平均よりも高い。

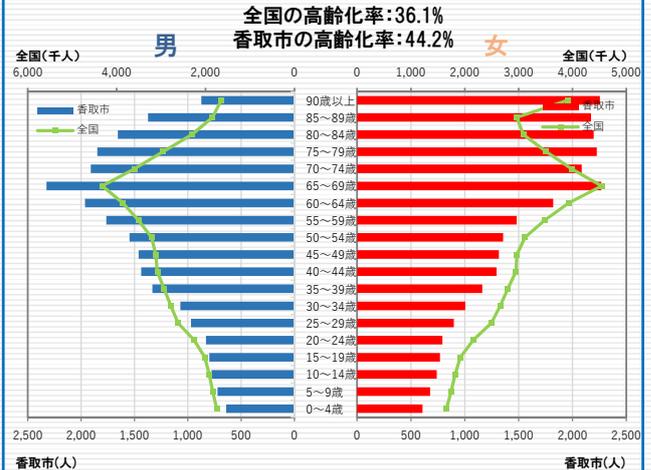
高齢化率がさらに上昇し、2040年には住民の約2.3人に1人が高齢者(65歳以上)となる。高齢化率は全国平均よりも高い。

①人口ピラミッド(2010年)



出所:総務省「平成22年国勢調査」より作成

②人口ピラミッド(2040年、推計値)



出所:国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」より作成

## (2) 人口の集積度合い

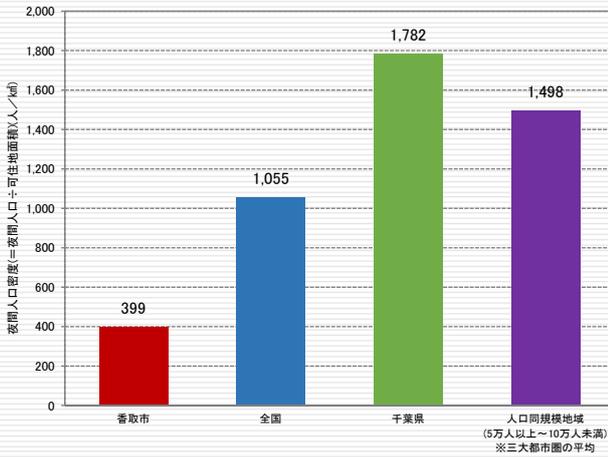
### 分析の視点

- ✓ 人口密度が高い地域ほど人口が集積しており、経済活動も活発に行われていると考えられる。
- ✓ ここでは、地域の人口密度を全国や県などの人口密度と比較し、人口の集積度合いを把握する。

香取市の夜間人口密度は、全国や県、人口同規模地域と比較すると低い水準である。

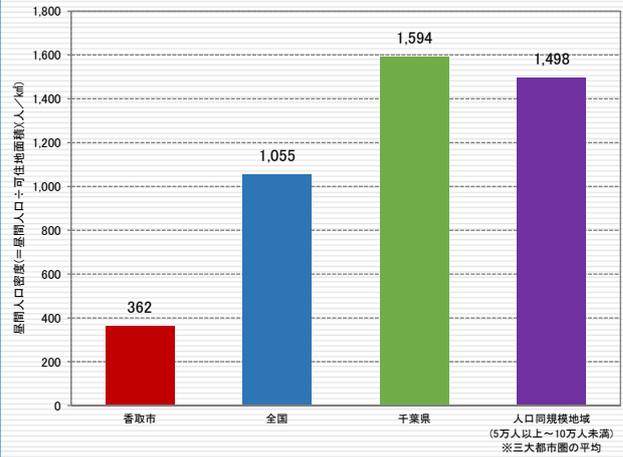
香取市の昼間人口密度は、全国や県、人口同規模地域と比較すると低い水準である。

#### ① 夜間人口密度(=夜間人口/可住地面積)



出所:総務省「平成22年国勢調査」、「統計でみる市区町村のすがた2012」より作成

#### ② 昼間人口密度(=昼間人口/可住地面積)



出所:総務省「平成22年国勢調査」、「統計でみる市区町村のすがた2012」より作成

## (2) 総人口の分布と変化

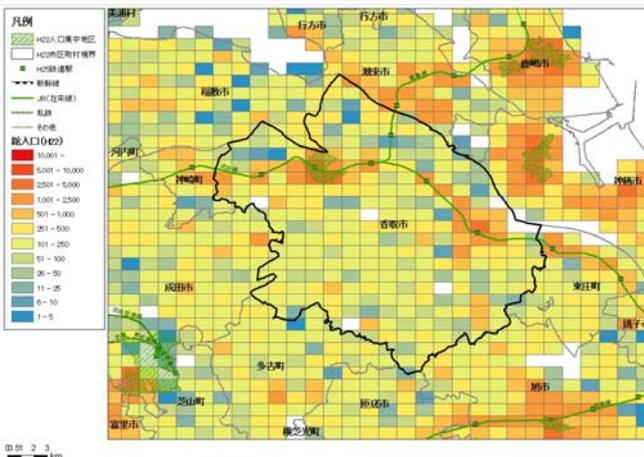
### 分析の視点

- ✓ 地域の人口が増えることで消費が増え、生産活動が増えることによって人口が増える等、経済活動と人口には密接な関係がある。
- ✓ ここでは、地域で人口が集積しているエリアはどこか、人口の分布が大きく変化しているエリアはどこかを把握する。

佐原駅、小見川駅付近等、JR成田線の沿線平野部に人口が分布している。

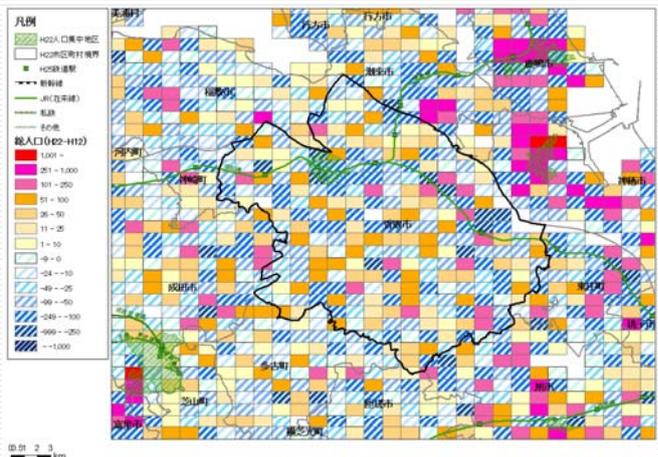
10年前と比較すると、佐原駅付近の人口集中地区等、人口が減少しているエリアが市全域で目立つ。

#### ① 総人口の分布(H22)



出所:総務省統計局「平成22年国勢調査地域メッシュ統計」より作成

#### ② 総人口の分布の変化(=H22-H12)



出所:総務省統計局「国勢調査地域メッシュ統計」より作成

## (2) 高齢者(65歳以上)人口の分布と変化

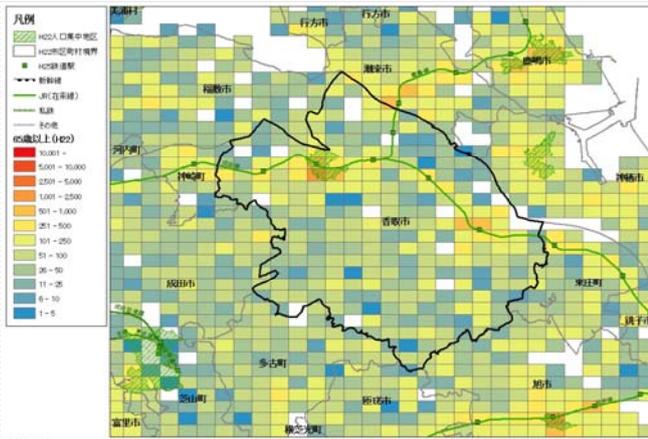
### 分析の視点

- ✓ 高齢者人口の分布を把握することで、高齢者の生活利便性を高める方策を検討することが可能になる。
- ✓ ここでは、地域で高齢者人口が集積しているエリアはどこか、高齢者人口の分布が大きく変化しているエリアはどこかを把握する。

総人口の分布と同様に、佐原駅、小見川駅付近等、J R成田線沿線の平野部に高齢者人口が分布している。

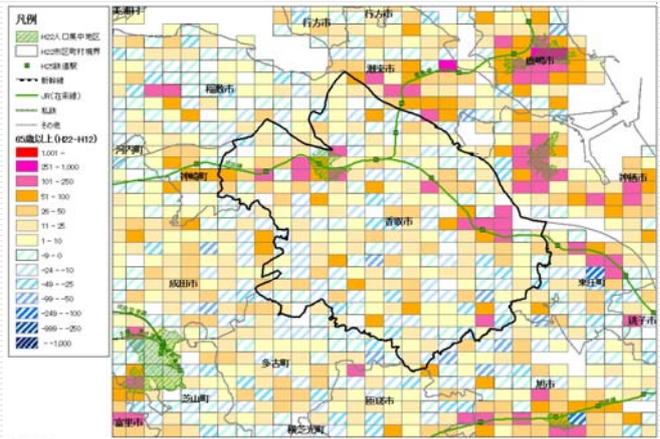
10年前と比較すると、高齢者人口は佐原駅、小見川駅付近等、J R成田線沿線の平野部で特に増加している。

### ① 高齢者(65歳以上)人口の分布(H22)



出所:総務省統計局「平成22年国勢調査地域メッシュ統計」より作成

### ② 高齢者(65歳以上)人口の分布の変化(=H22-H12)



出所:総務省統計局「国勢調査地域メッシュ統計」より作成

11

## (2) 生産年齢(15歳以上65歳未満)人口の分布と変化

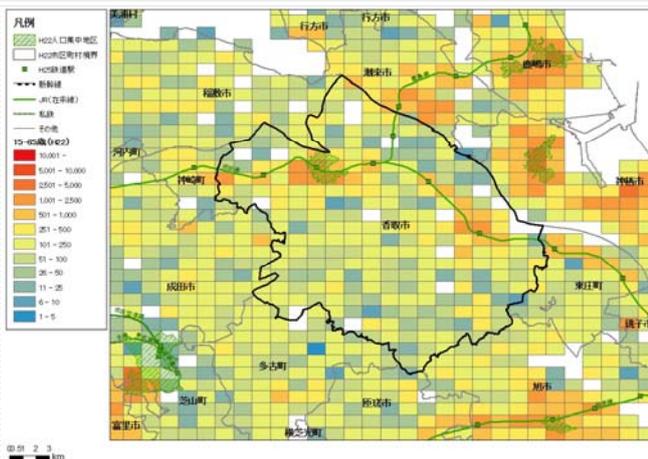
### 分析の視点

- ✓ 生産年齢人口は、地域の生産及び消費に大きく影響する。
- ✓ ここでは、地域で生産年齢人口が集積しているエリアはどこか、生産年齢人口が大きく変化しているエリアはどこかを把握する。

総人口の分布と同様に、佐原駅、小見川駅付近等、J R成田線沿線の平野部に生産年齢人口が分布している。

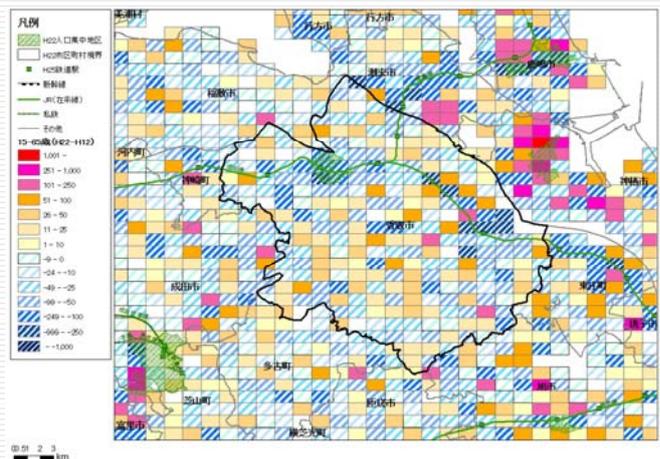
10年前と比較すると、J R成田線沿線平野部を中心に、市全域で生産年齢人口が減少している。

### ① 生産年齢(15歳以上65歳未満)人口の分布(H22)



出所:総務省統計局「平成22年国勢調査地域メッシュ統計」より作成

### ② 生産年齢(15歳以上65歳未満)人口の分布の変化(=H22-H12)



出所:総務省統計局「平成22年国勢調査地域メッシュ統計」より作成

12

### (3) 就業者の規模

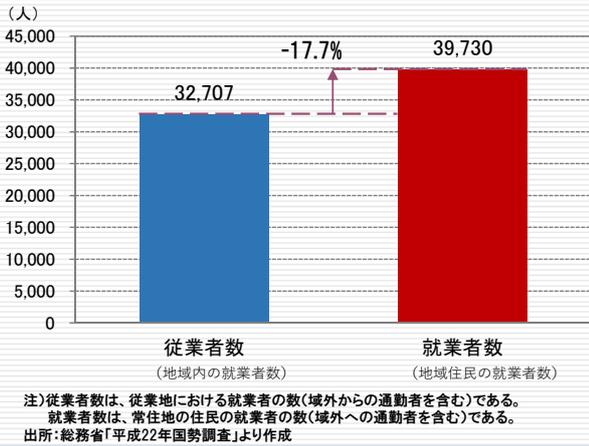
#### 分析の視点

- ✓ 就業者は生産に従事するとともに、生産活動の対価として得た所得をもとに地域で消費を行うため、就業者の規模は地域の経済循環にとって重要な要素の1つである。
- ✓ ここでは、地域の就業者の規模を地域内の就業者(従業者)、地域住民の就業者(就業者)別に把握する(下図①)。
- ✓ また、就業者数の近年の動向を産業別に把握する(下図②)。

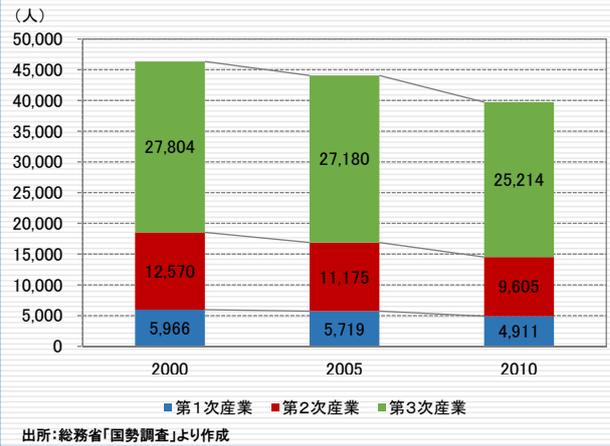
従業者数が就業者数よりも少なく、通勤者が地域外に流出している拠点性の低い地域である。

就業者数は近年減少傾向にある。第2次産業も第3次産業も減少している。

① 就業者数と従業者数



② 産業別就業者数の推移



### (3) 就業の集積度合い

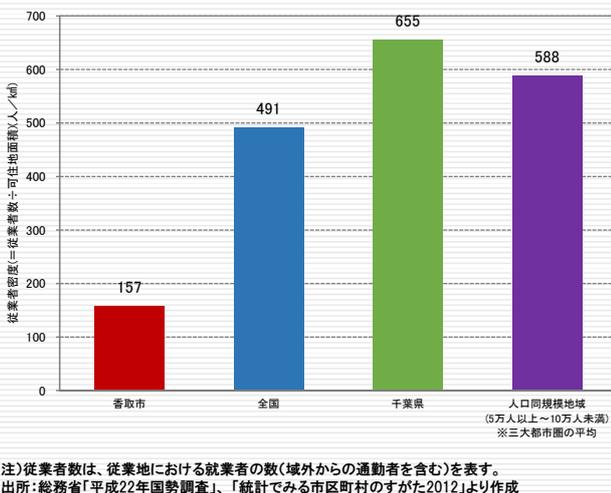
#### 分析の視点

- ✓ 従業者の密度が高いほど、その地域では生産活動が活発に行われていると考えられる。
- ✓ 就業者の密度が高いほど、その地域では所得が高く消費が活発に行われていると考えられる。
- ✓ ここでは、地域の従業者密度と就業者密度を全国や県などの密度と比較し、就業の集積度合いを把握する。

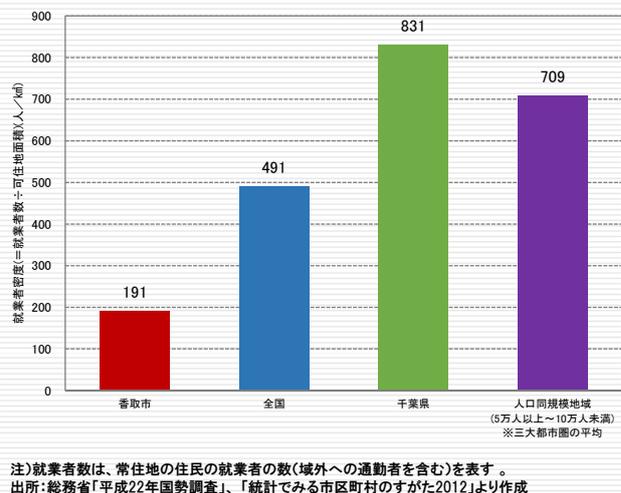
香取市の従業者密度は、全国や県、人口同規模地域と比較すると低い水準である。

香取市の就業者密度は、全国や県、人口同規模地域と比較すると低い水準である。

① 従業者密度(=従業者数/可住地面積)



② 就業者密度(=就業者数/可住地面積)



### (3) 従業者の分布と変化

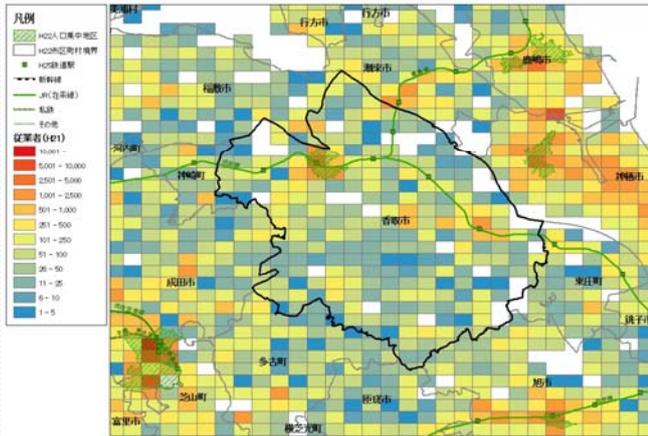
#### 分析の視点

- ✓ 従業者が多い地域は、地域内の事業所における生産活動が活発な地域であり、従業者が減少している場合、地域内の生産活動が低下している可能性がある。
- ✓ ここでは、地域で従業者が集積しているエリアはどこか、従業者の分布が大きく変化しているエリアはどこかを把握する。

佐原駅、小見川駅付近に、従業者が特に多く分布している。

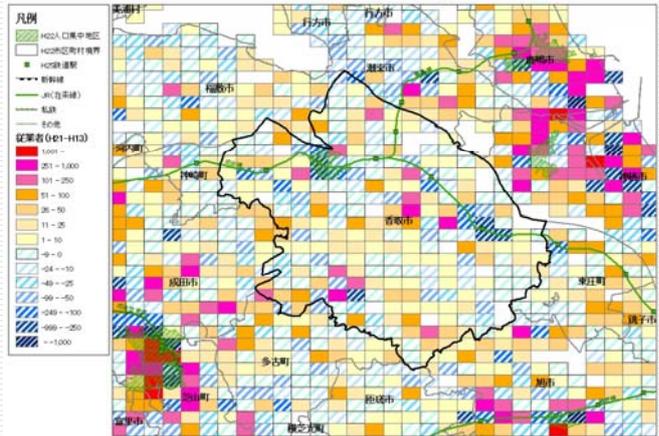
10年前と比較すると、郊外で従業者が増加したエリアが散見される一方で、佐原駅、小見川駅付近等、従業者が減少したエリアも目立つ。

①従業者の分布(H21)



出所：総務省統計局「平成22年国勢調査地域メッシュ統計」より作成

②従業者の分布の変化(=H21-H13)



出所：総務省統計局「国勢調査地域メッシュ統計」より作成

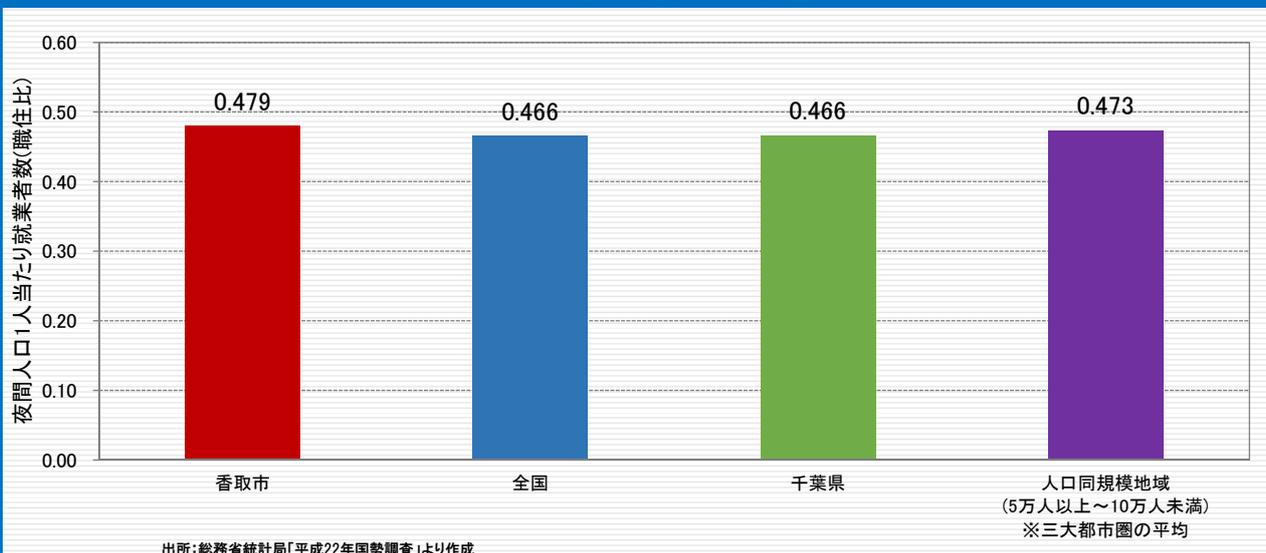
### (4) 夜間人口1人当たり就業者数(職住比)

#### 分析の視点

- ✓ 夜間人口1人当たり就業者数(職住比)が高い地域ほど、住民の幅広い年齢や性別を問わない労働参加があると考えられ、人口1人当たり雇用者所得の底上げにつながっている可能性がある。
- ✓ ここでは、職住比を全国や県、同規模地域と比較し、地域住民の労働参加の状況を把握する。

夜間人口1人当たり就業者数は全国や、県、人口同規模地域と比較すると高い水準であり、地域住民の労働参加が多い地域である。

夜間人口1人当たり就業者数(職住比)



出所：総務省統計局「平成22年国勢調査」より作成

## 2. 生産

- (1)生産額関連データの分析
- (2)域際収支データの分析
- (3)付加価値額関連データの分析
- (4)雇用者所得の分析
- (5)産業構造の分析
- (6)1人当たり付加価値額の分析

17

### 生産に関する分析と企業会計(非製造業)との関係について

生産に関する分析( (1)~(4) )では、以下の項目について分析するが、それぞれ企業会計(非製造業)との関係は以下のとおりである。

- (1)生産額 : 企業の売上(販売額)にあたる
- (2)純移輸出 : 域外への売上(販売額)と域外からの購入額との差にあたる
- (3)付加価値額 : 企業の粗利益(=売上-仕入額)にあたる(非製造業の場合)
- (4)雇用者所得 : 企業が労働者に支払う人件費にあたる

#### 企業の売上と費用、利益の関係図



18

# (1) 地域の中で規模の大きい産業は何か: 売上

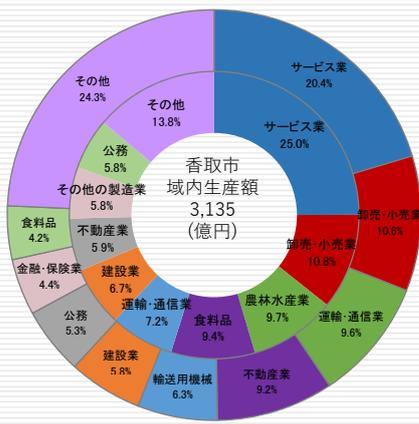
## 分析の視点

- ✓ 生産額が大きい産業は、域内にとどまらず域外へも販売している可能性が高く、域外から所得を獲得できる地域にとって強みのある産業である。
- ✓ ここではまず、産業別生産額より、地域の中で規模の大きい産業が何かを把握する(下図①)。
- ✓ また、修正特化係数を用いて、全国平均と比較して地域に集積している産業が何かを把握する(下図②)。

香取市の産業で生産額が大きい産業は、第1位サービス業、第2位卸売・小売業である。これらの構成比の合計は35.8%と大きく、本地域の「稼ぐ力」の大きなウェイトを占めている。

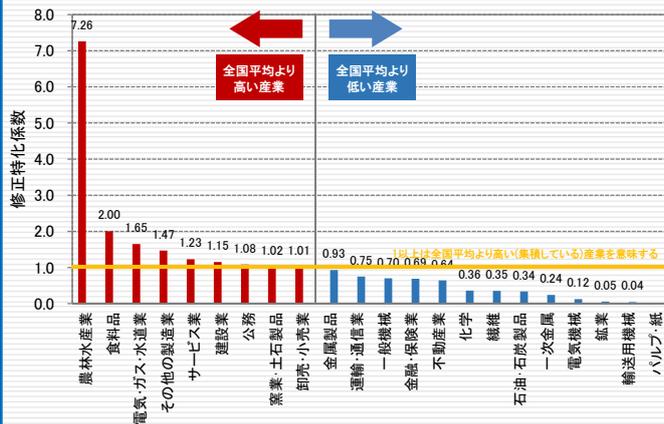
全国と比較して集積している産業は、農林水産業、食料品、電気・ガス・水道業、その他の製造業、サービス業、建設業、公務、窯業・土石製品、卸売・小売業である。

① 産業別生産額構成比



注) 外側の円グラフは全国生産額の産業別構成比を表す

② 産業別修正特化係数(生産額ベース)



出所:「地域経済循環分析用データ」より作成

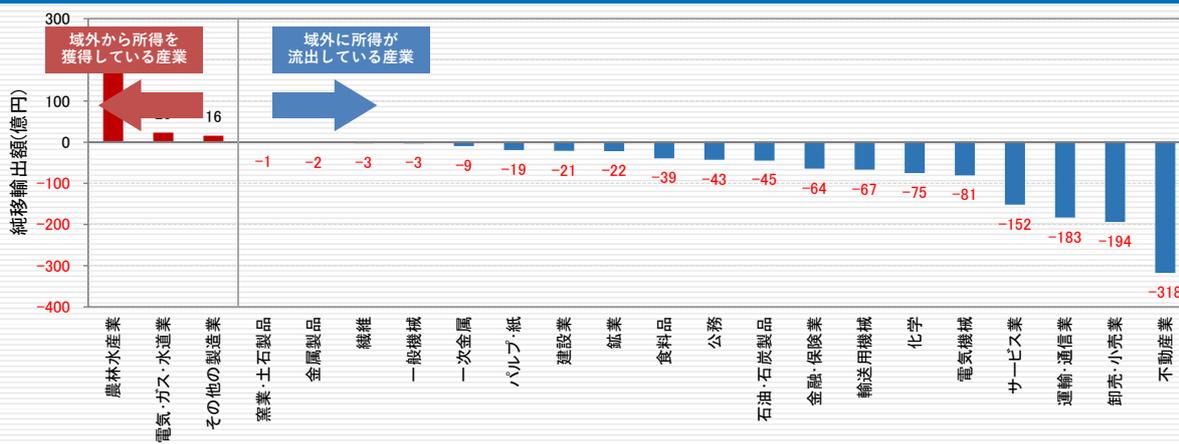
# (2) 域外から所得を獲得している産業は何か: 売上

## 分析の視点

- ✓ 域内の経済循環の流れを太くするためには、地域が個性や強みを生かして生産・販売を行い、域外からの所得を獲得することが重要である。
- ✓ 純移輸出額がプラスとなっている産業は、モノやサービスの購入に関して、域外への支払い額よりも域外からの受取り額の方が多く、域外から所得を獲得できる強みのある産業である。
- ✓ ここでは、産業別純移輸出額を用いて、域外から所得を獲得している産業が何かを把握する。

域外から所得を獲得している産業は、農林水産業、電気・ガス・水道業、その他の製造業である。これらは域内での生産額が大きい産業であり、地域で強みのある産業といえる。

産業別純移輸出額



出所:「地域経済循環分析用データ」より作成



## (4)住民の生活を支えている産業は何か②

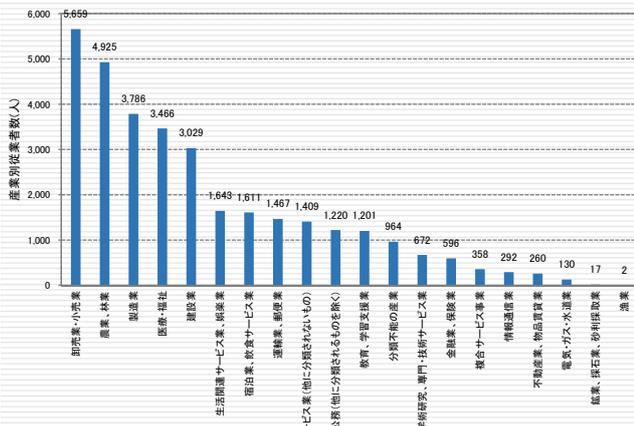
### 分析の視点

- ✓ 従業者数や就業者が多い産業は、地域の雇用を吸収している産業であり、住民の生活を支えている産業である。
- ✓ ここでは、産業別従業者数を分析し、住民(域外の住民も含む)の生活を支えている産業を把握する(下図①)。
- ✓ また、産業別就業者数を分析し、地域住民の生活を支えている産業(域外の事業所も含む)を把握する(下図②)。

地域で最も多くの雇用を吸収している産業は、卸売業・小売業であり、次いで農業、林業、製造業となっている。

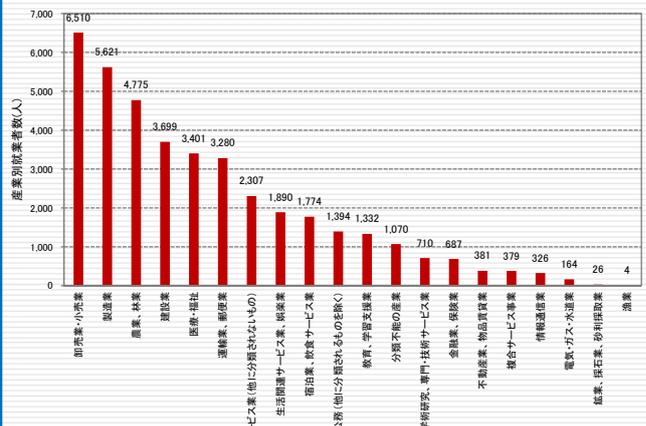
地域住民の雇用を最も多く吸収している産業は、卸売業・小売業であり、次いで製造業、農業、林業となっている。

①産業別従業者数



注)従業者数は、従業地における就業者の数(域外からの通勤者を含む)を表す。  
出所:総務省「平成22年国勢調査」より作成

②産業別就業者数



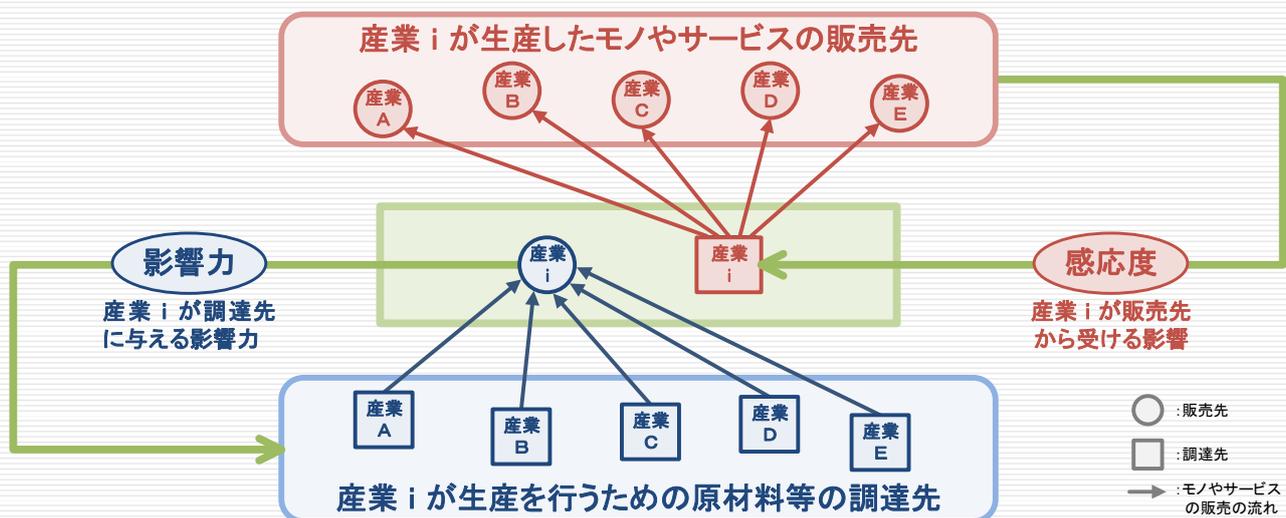
注)就業者数は、常住地の住民の就業者の数(域外への通勤者を含む)を表す。  
出所:総務省「平成22年国勢調査」より作成

23

## 影響力係数と感応度係数について

- ✓ 地域の産業構造の分析では、地域の産業の影響力係数と感応度係数を確認する。
- ✓ 地域において影響力係数、感応度係数ともに高い産業は、地域内で原材料の調達先が多く、かつ地域内への販売先も多い産業であり、地域にとって核となる産業であると言える。

### 影響力と感応度の概念図



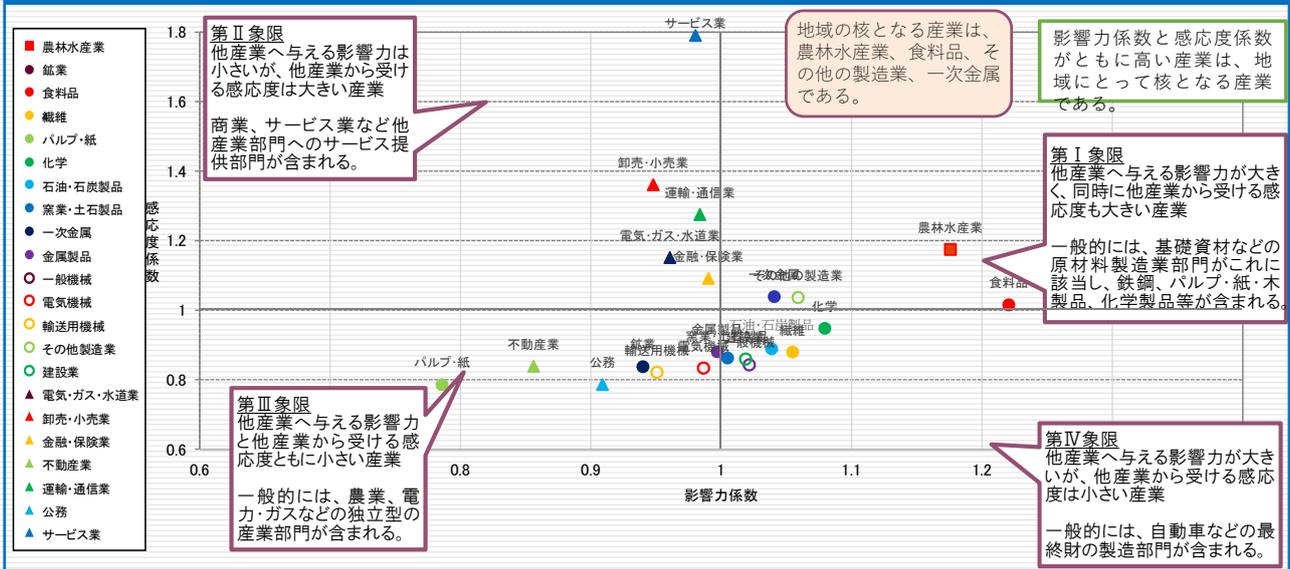
24

## (5)地域の産業構造について①

### 分析の視点

- ✓ 消費や投資の増加によって他産業に大きな影響を与える産業は何か、また、逆に影響を受ける産業は何かを、影響力係数と感応度係数から把握する。
- ✓ 影響力係数は、当該産業の消費や投資の増加が、全産業(調達先)に与える影響の強さを表す。
- ✓ 感応度係数は、全産業(販売先)の消費や投資の増加が、当該産業に及ぼす影響の強さを表す。

### 影響力係数と感応度係数



25

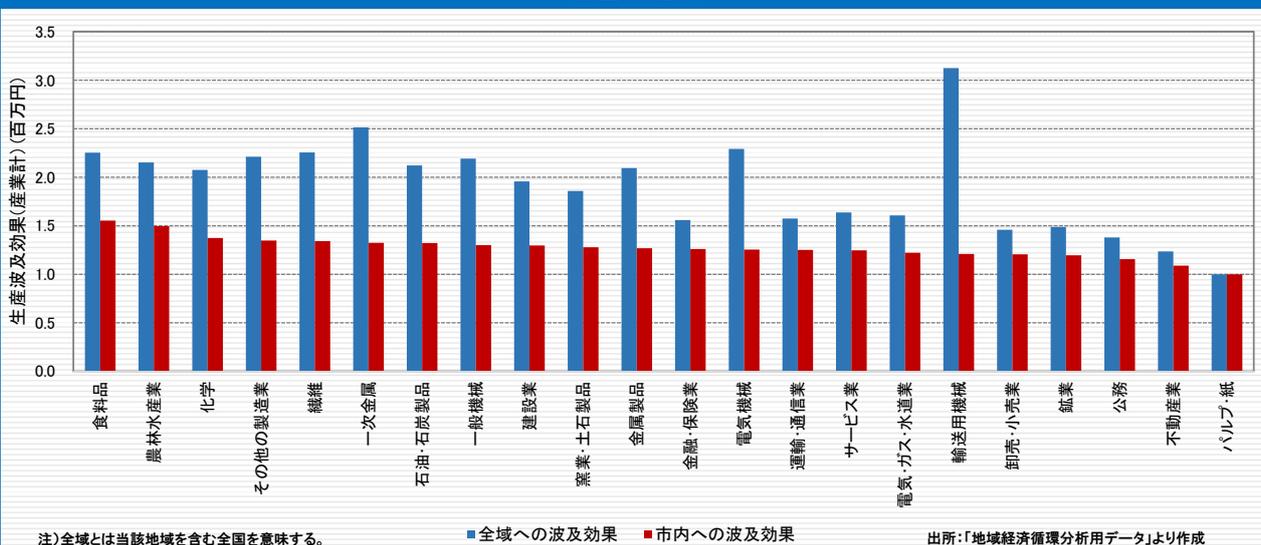
## (5)地域の産業構造について②

### 分析の視点

- ✓ 地域の産業間や地域内外の取引構造を分析することで、地元への波及効果を把握する。
- ✓ ここでは、消費や投資の増加によって直接間接的に生じる生産誘発額を把握する。

各産業の消費や投資が100万円増加したときの市内への生産誘発効果(全産業合計値)は、食料品、農林水産業、化学等で高く、影響力係数が高い産業ほど市内への波及効果が高い。

### 生産誘発額



26

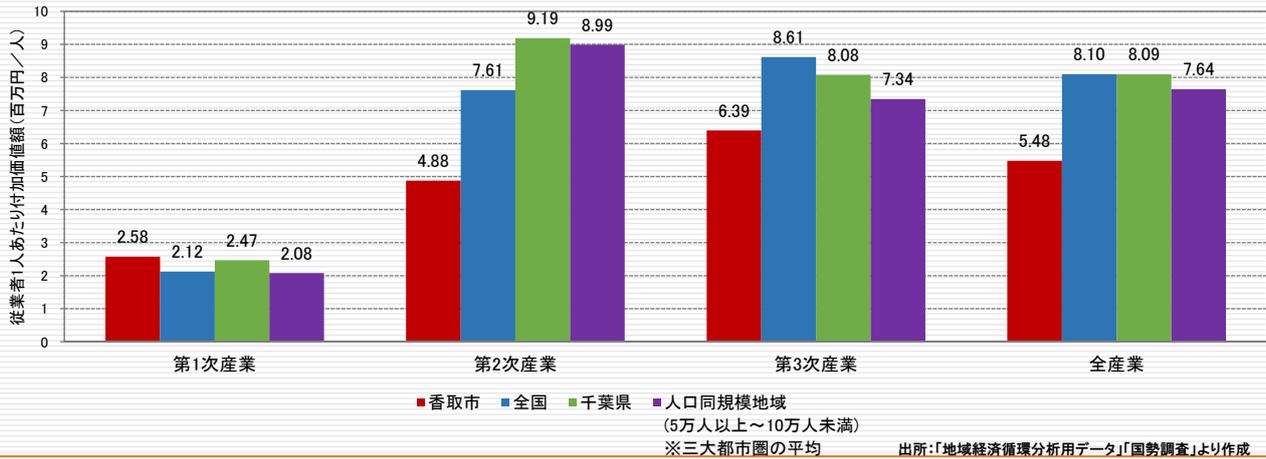
## (6)地域の産業の1人当たり付加価値額について①

### 分析の視点

- ✓ 我が国の今後の労働力不足克服のためには、1人当たり付加価値額の向上が重要である。我が国の雇用の7割を担うサービス業の1人当たり付加価値額の向上は、長年指摘されており課題となっている。
- ✓ ここでは、従業者1人当たりの付加価値額を全国や県と比較することで、1人当たり付加価値額の高い産業、低い産業を把握する。

全産業の労働生産性を見ると、全国、県、人口同規模地域のいずれと比較しても低い。産業別には、全国と比較すると第1次産業では労働生産性は高い水準であるが、第2次産業と第3次産業では低い水準である。

従業者1人当たり付加価値額(労働生産性)



27

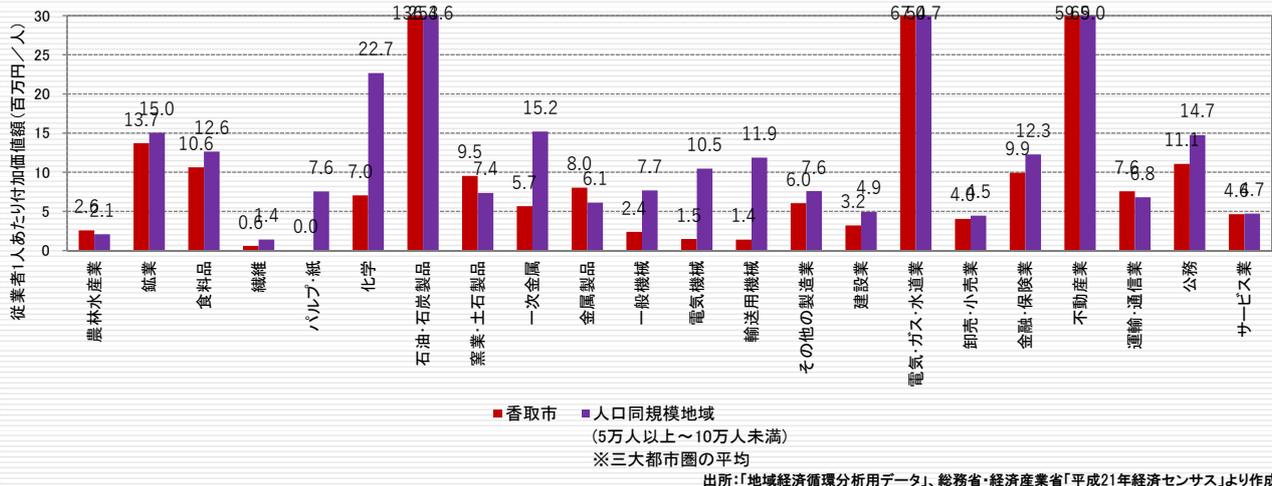
## (6)地域の産業の1人当たり付加価値額について②

### 分析の視点

- ✓ ここでは、人口同規模地域との比較を行っていく。
- ✓ 全22産業の従業者1人当たりの付加価値額を人口同規模地域と比較することで、1人当たり付加価値額の高い産業、低い産業を把握する。

第1次産業については、農林水産業の1人当たり付加価値額は人口同規模地域と比較して高い。第2次産業については、窯業・土石製品、金属製品が人口同規模地域と比較して高い。第3次産業については、電気・ガス・水道業、運輸・通信業が人口同規模地域と比較して高い。

従業者1人当たり付加価値額(労働生産性)



28

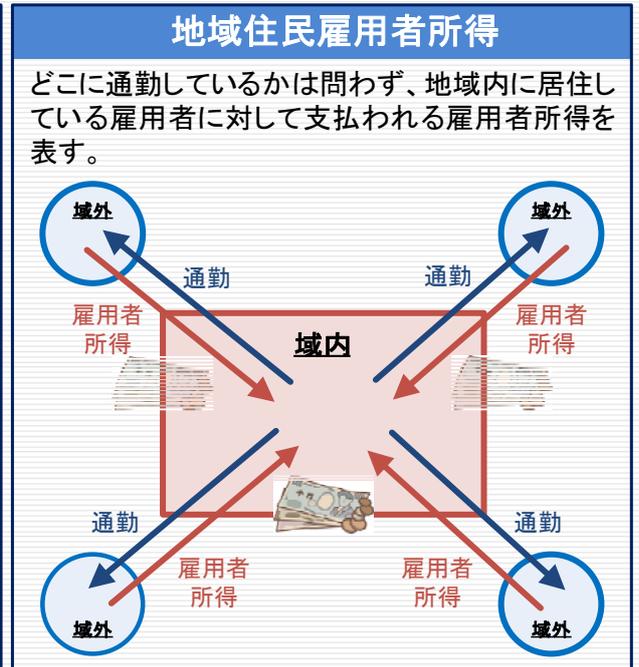
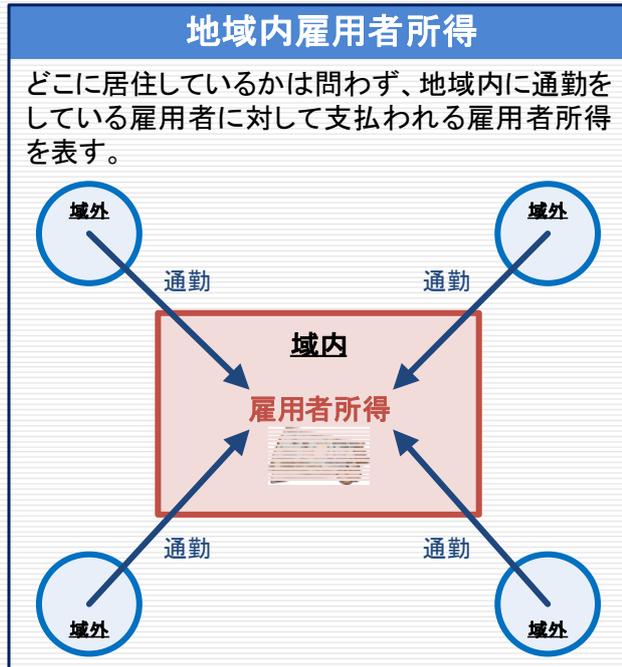
---

## 3. 分配

- (1) 所得の流出入状況の分析
- (2) 1人当たりの所得水準の分析
- (3) 所得の流出率

# 地域内所得と地域住民所得について

- ✓ 所得には雇用者所得とその他所得があり、これらの所得は、従業地ベースで捉えるか居住地ベースで捉えるかによって、それぞれ地域内所得と地域住民所得に区分される。
- ✓ 雇用者所得を例に、地域内雇用者所得と地域住民雇用者所得の概念を以下に示す。



## (1) 地域住民に所得が分配されているか

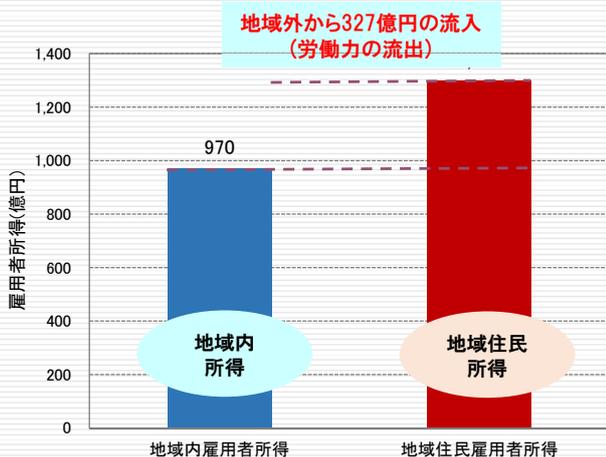
### 分析の視点

- ✓ 分配面の分析においては、まず、地域内の生産・販売で得た所得が地域住民の所得になっているか否かを把握する。
- ✓ 同様に、生産・販売で得た所得(利益等)が市内の企業の所得になっているか否かを把握する。

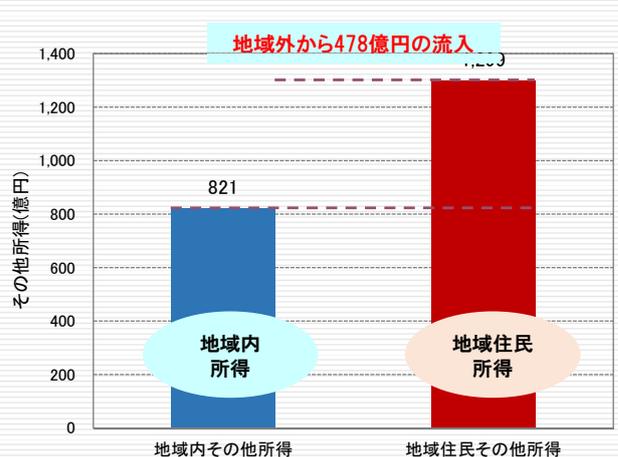
地域内で企業が生産・販売で得た雇用者所得の方が、地域住民が得る所得よりも327億円少なく、地域内へ雇用者所得が流入している。

地域内で企業が生産・販売で得たその他所得(内部留保、配当等)の方が、地域住民が得るその他所得よりも478億円少なく、地域内へその他所得が流入している。

① 地域内雇用者所得と地域住民の雇用者所得の比較



② 地域内その他所得と地域住民その他所得の比較



## (2)1人当たりの所得水準①:雇用者所得

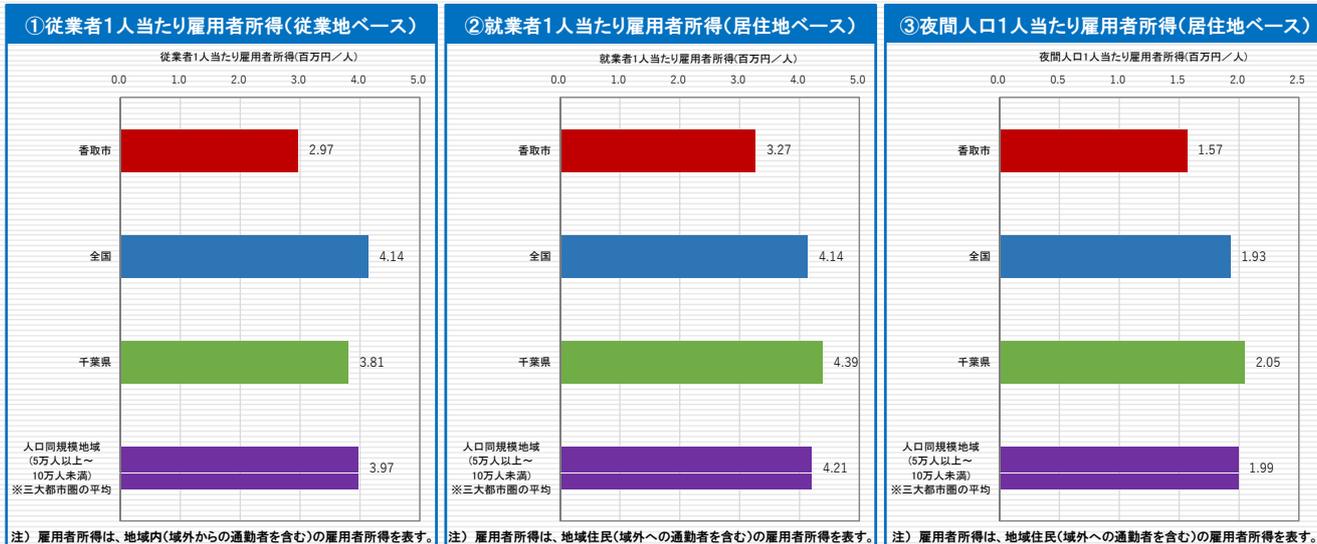
### 分析の視点

- ✓ 地域の雇用者所得の規模は、地域の従業者数、就業者数、夜間人口の規模に依存する。
- ✓ ここでは、地域内の雇用者所得を従業者数で、地域住民の雇用者所得を就業者数で、さらに、地域住民の雇用者所得を夜間人口で除した1人当たりの所得水準を作成し、全国や県と比較してどの程度の所得水準であるかを把握する(下図①、②、③)。

従業者1人当たりの雇用者所得は全国、県、人口同規模地域と比較して低い水準である。

就業者1人当たりの雇用者所得は全国、県、人口同規模地域と比較して低い水準である。

夜間人口1人当たりの雇用者所得は全国、県、人口同規模地域と比較して低い水準である。



出所:「地域経済循環分析用データ」 「国勢調査」より作成

33

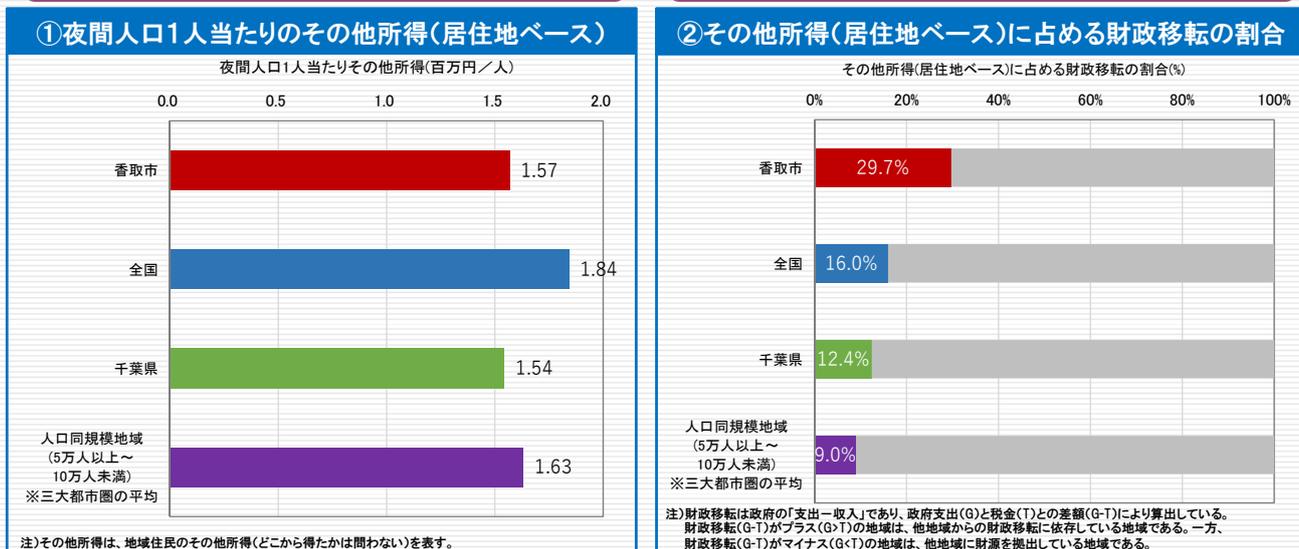
## (2)1人当たりの所得水準②:その他所得

### 分析の視点

- ✓ その他所得には財政移転が含まれる。まず、地域住民のその他所得(居住地ベース)を夜間人口で除した1人当たりの所得水準を作成し、全国や県と比較してどの程度の所得水準であるかを把握する(下図①)。
- ✓ その他所得(居住地ベース)に占める財政移転の割合を全国、県、同規模地域で比較し、当該地域の財政移転の水準を把握する(下図②)。

夜間人口1人当たりのその他所得は県と比較すると高いが、全国、人口同規模地域と比較すると低い水準である。

香取市は、その他所得(居住地ベース)に占める財政移転の割合が全国、県、人口同規模地域と比較して高い水準である。



出所:「地域経済循環分析用データ」 「国勢調査」より作成

34

## (2) 1人当たりの所得水準③:合計(=雇用者所得+その他所得)

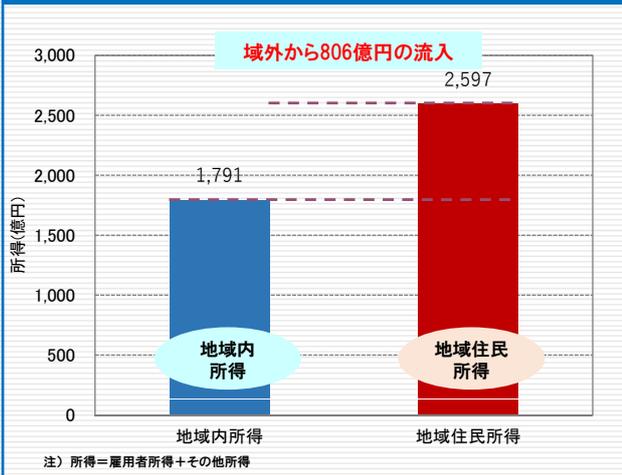
### 分析の視点

- ✓ 所得を雇用者所得とその他所得にわけずに、両者を合計した所得について、地域住民の所得になっているか否かを把握する(下図①)。
- ✓ また、地域住民所得夜間人口で除した1人当たりの所得水準を作成し、全国や県と比較してどの程度の所得水準であるかを把握する(下図②)。

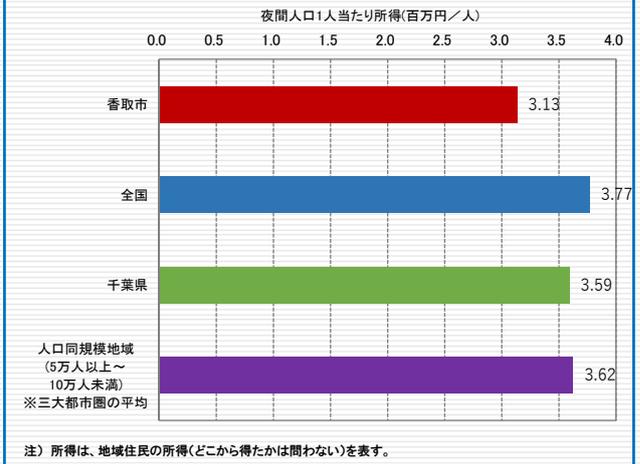
地域内で企業が生産・販売で得た所得の方が、地域住民が得る所得よりも806億円少なく、地域外から所得が流入している

夜間人口1人当たり所得は、全国、県、人口同規模地域と比較して低い水準である。

①地域内所得と地域住民所得の比較



②夜間人口1人当たり所得(居住地ベース)



出所:「地域経済循環分析用データ」「国勢調査」より作成

## (3) 所得の流出率

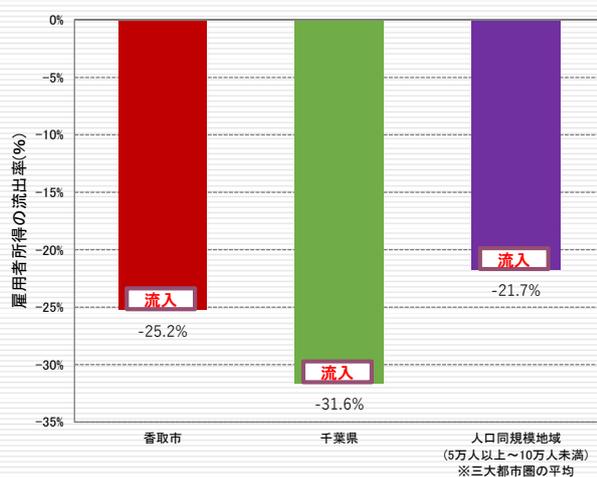
### 分析の視点

- ✓ 雇用者所得、その他所得の流出率を県や人口同規模地域と比較して、どの程度の流出率であるかを把握する。

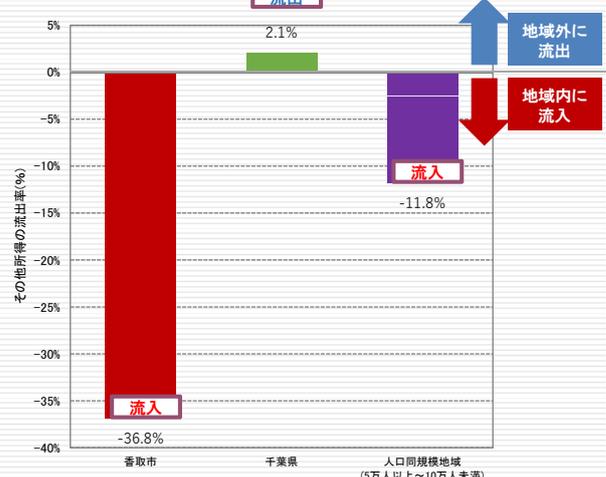
雇用者所得の流出率は-25.2%である。県と比較すると高いが、人口同規模地域と比較すると低い水準である。

その他所得の流出率は-36.8%である。県や人口同規模地域と比較すると最も低い水準である。

雇用者所得の流出率



その他所得の流出率



出所:「地域経済循環分析用データ」より作成

## 4. 消費

- (1) 消費の流出入状況の分析
- (2) 1人当たりの消費水準の分析
- (3) 小売業関連データの分析

37

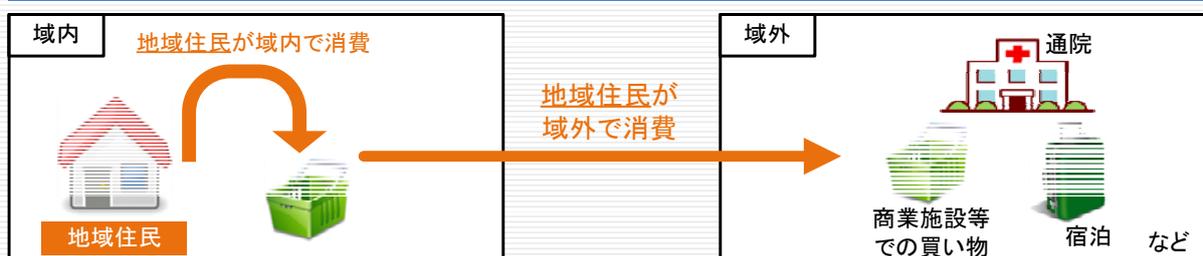
### 地域内消費額と地域住民消費額について

- ✓消費額には地域内消費額と地域住民消費額の2種類の概念がある。
- ✓地域内消費額は当該地域内で消費された額を表し、誰が消費したかは問わない。
- ✓地域住民消費額は、地域住民の消費額でありどこで消費したかは問わない。

地域内消費額：域外住民を含む当該地域内での消費額を表す



地域住民消費額：域外での消費を含む当該地域住民の消費額を表す



# (1) 住民の所得が域内で消費されているか

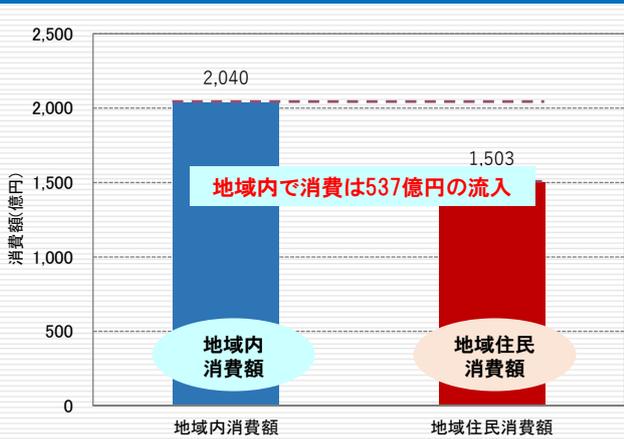
## 分析の視点

- ✓ 消費面では、地域の住民の所得が域内で消費されているかを把握する。
- ✓ まず、域内消費額と地域住民消費額を比較し、消費の流出・流入状況を把握する(下図①)。
- ✓ 次に、消費の流出率を県や人口同規模地域と比較して、どの程度の流出水準であるかを把握する(下図②)。

域内で消費される額が、地域の住民が消費する額よりも537億円多く、消費が流入している。

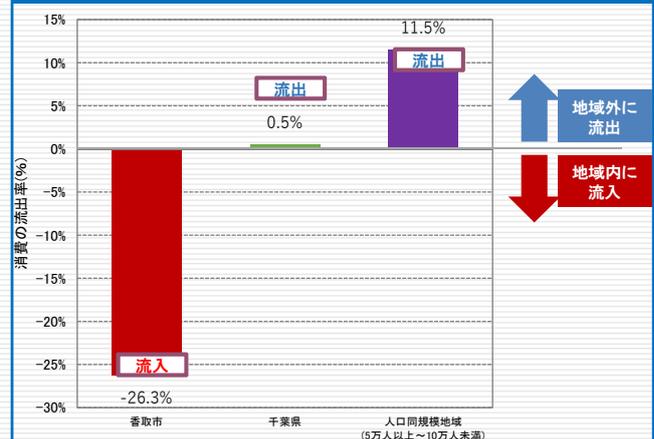
香取市の消費の流出率は-26.3%と流入している。消費の流入は県や人口同規模地域と比較すると最も大きい。

①消費の流入・流出



注) 域内消費額は、域内の民間消費(誰が消費したかは問わない)を表す。  
地域住民消費額は、地域住民の民間消費(どこで消費したかは問わない)を表す。

②消費の流出率



注) 消費の流出率(%)=(地域住民消費額-域内消費額)/域内消費額×100  
流出率のマイナスは流入を意味する。

出所:「地域経済循環分析用データ」より作成

# (2) 1人当たりの消費水準の分析

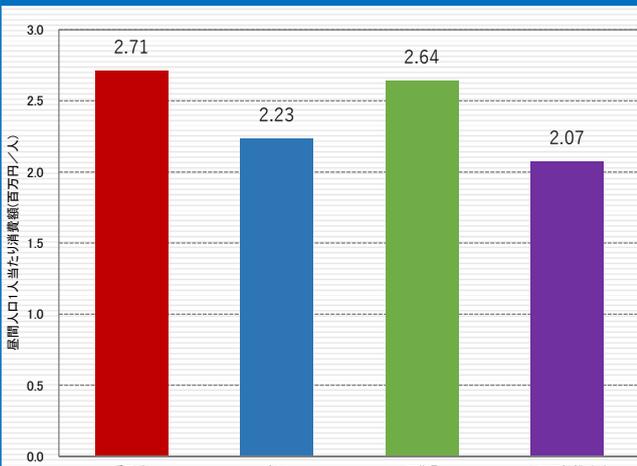
## 分析の視点

- ✓ 地域の消費の規模は、地域の昼間人口や夜間人口の規模に依存する。
- ✓ ここでは、域内消費額を昼間人口で、地域住民消費額を夜間人口で除した1人当たりの消費水準を作成し、全国や県と比較してどの程度の消費水準であるかを把握する(下図①、②)。

昼間人口1人当たりの消費額は、全国、県、人口同規模地域と比較すると最も高い水準である。

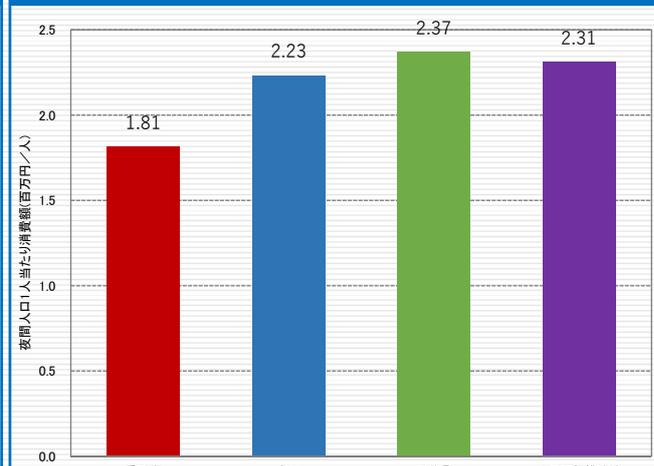
夜間人口1人当たりの消費額は、全国、県、人口同規模地域と比較すると最も低い水準である。

①昼間人口1人当たり消費額(従業地ベース)



注) 消費額は、域内の民間消費(誰が消費したかは問わない)を表す。

②夜間人口1人当たり消費額(居住地ベース)



注) 消費額は、地域住民の民間消費(どこで消費したかは問わない)を表す。

出所:「地域経済循環分析用データ」「国勢調査」より作成

### (3)小売業年間販売額の分布と変化

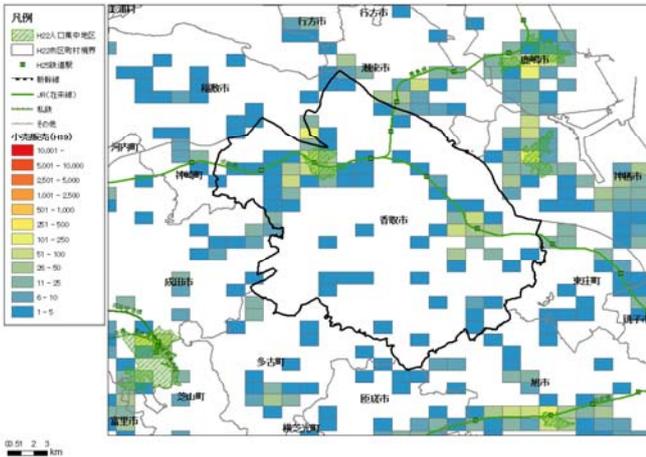
#### 分析の視点

- ✓ 地域の消費額は、地域の小売業の販売額に直結している。
- ✓ ここでは、地域で小売業の販売額が多いエリアはどこか、小売業の販売額の分布が大きく変化しているエリアはどこかを把握する。

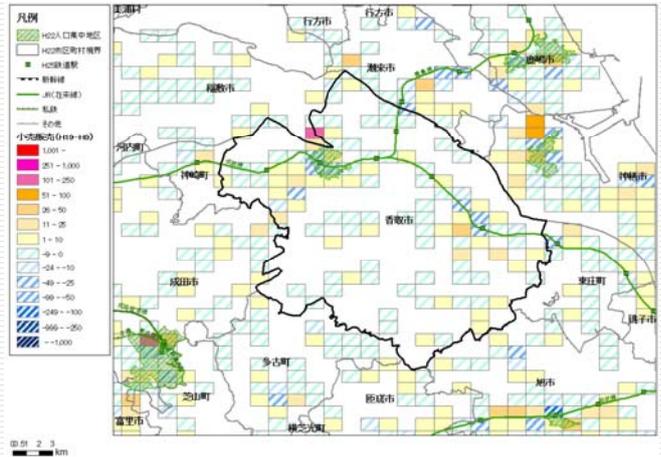
佐原駅と小見川駅の周辺に販売額が多いエリアが集中している。

10年前と比較すると、佐原駅、小見川駅付近を中心に、販売額が減少したエリアが目立つ一方、稲敷市との市境で販売額が増加したエリアがある。

①小売業年間販売額の分布(H19)



②小売業年間販売額の分布の変化(=H19-H9)



データより作成

### (3)小売業売場面積の分布と変化

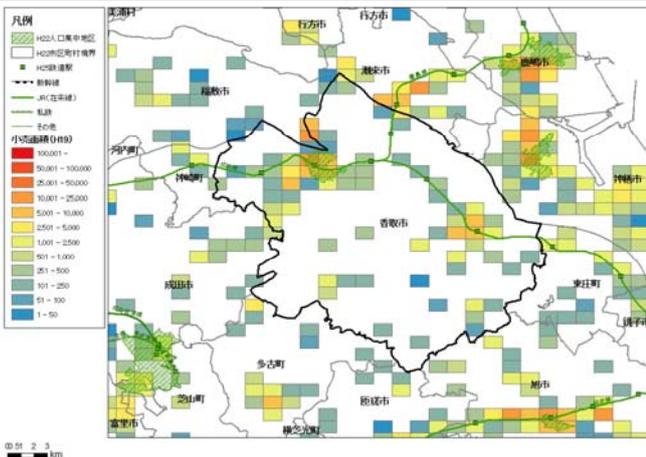
#### 分析の視点

- ✓ 中心市街地と郊外商業集積への小売店の出店や撤退、地域の競合状況等を把握するため、小売業の売場面積の分布及び売場面積の増減を把握する。
- ✓ ここでは、地域で小売業の売場面積が大きいエリアはどこか、小売業の売場面積の分布が大きく変化しているエリアはどこかを把握する。

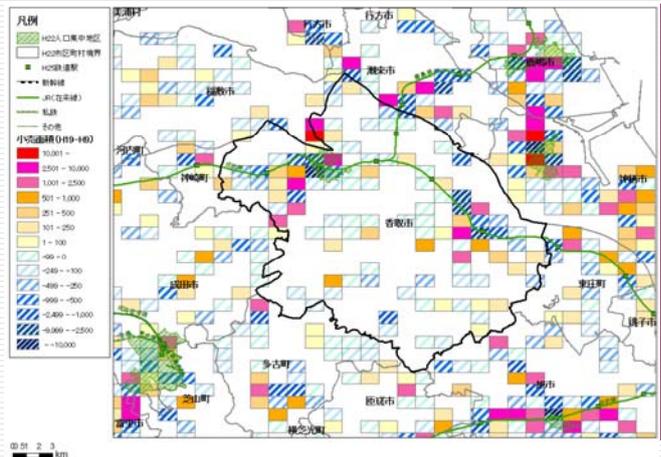
佐原駅、小見川駅付近に、比較的規模の大きい小売店が立地している。

10年前と比較すると、佐原駅、小見川駅付近で売場面積が減少している。一方、隣接する神栖市、潮来市、稲敷市等では、香取市に近いエリアで売場面積が増加している。

①小売業売場面積の分布(H19)



②小売業売場面積の分布の変化(=H19-H9)



出所：経済産業省「商業統計メッシュデータ」より作成

## 5. 投資

### (1) 地域内投資需要の分析

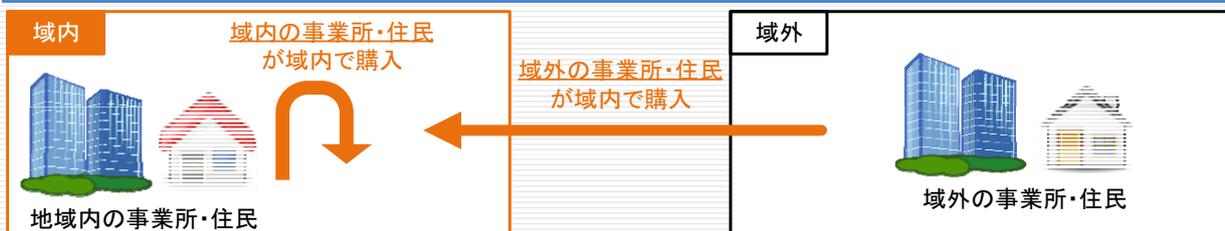
### (2) 1人当たりの投資水準の分析

43

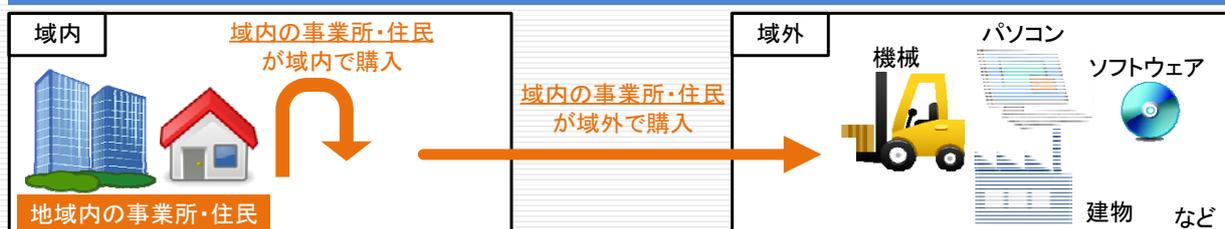
### 地域内投資額と地域企業投資額について

- ✓ 投資額には、地域内投資額と地域企業投資額の2種類の概念がある
- ✓ 地域内投資額は、新規に購入された当該地域内の固定資産の取得額を表し、どこの事業所・住民が取得したかは問わない。
- ✓ 地域企業等投資額は、当該地域内の事業所・住民によって新規に購入された固定資産の取得額を表し、どこで取得したかは問わない。

地域内投資額：新規に購入された当該地域内の固定資産の取得額を表す



地域企業等投資額：当該地域内の事業所・住民が新規に購入した固定資産の取得額を表す



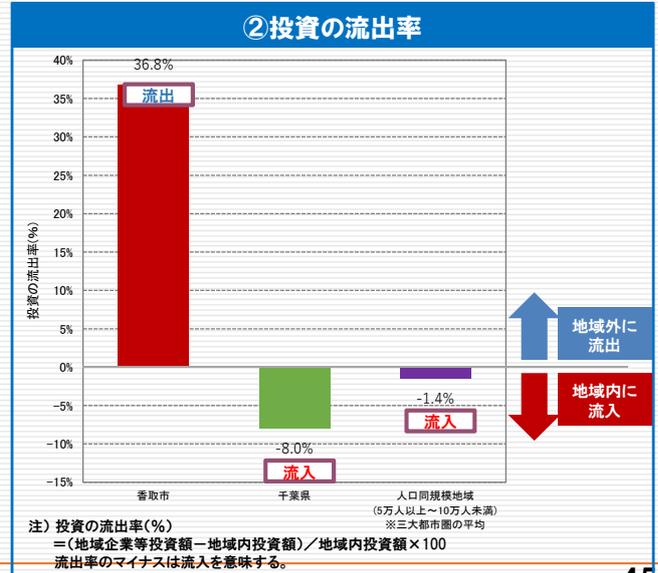
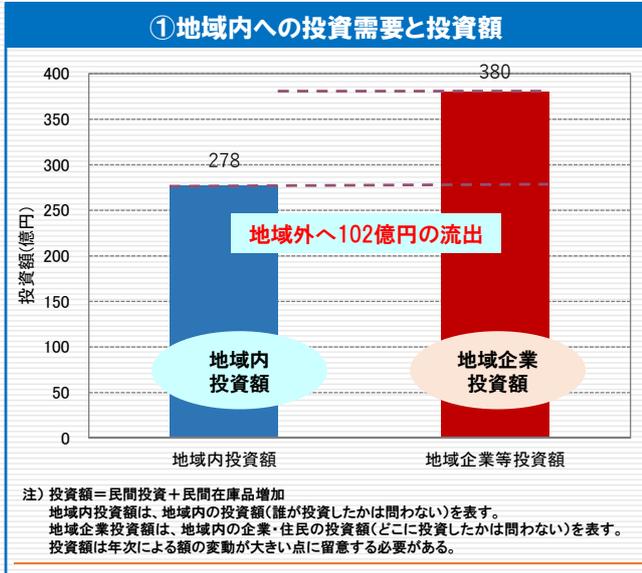
# (1)地域内に投資需要があるか

## 分析の視点

- ✓ 投資面では、地域の企業への投資額(投資需要)と地域内企業等が投資した額を比較し、投資が地域から流出しているか否かを把握する。
- ✓ また、投資の流出率を県や人口同規模地域と比較して、どの程度の流出水準であるかを把握する(下図②)。

地域内に投資される額が、地域内の企業が投資する額よりも102億円程度少なく、地域外に投資が流出している。

投資の流出率は36.8%である。投資の流出は県や人口同規模地域と比較すると最も大きい水準である。



出所:「地域経済循環分析用データ」より作成

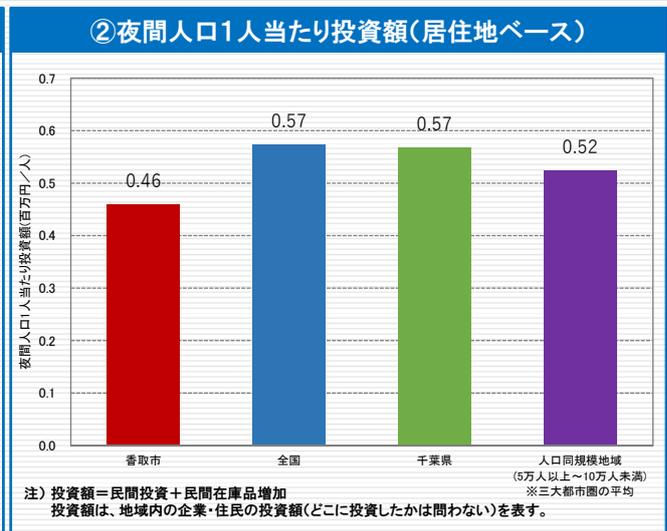
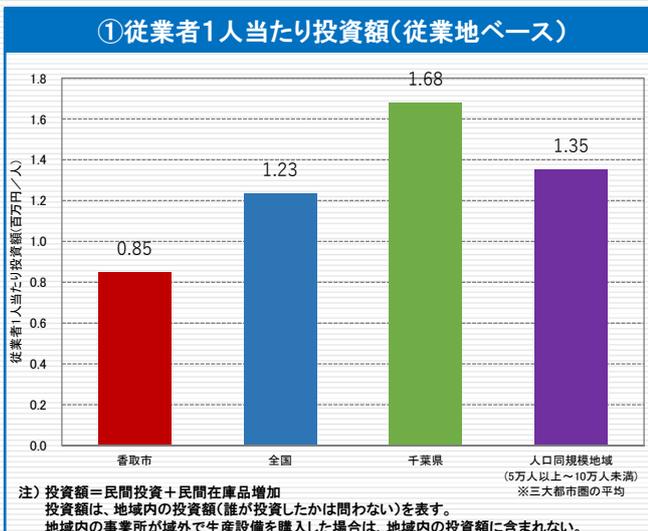
# (2)1人当たりの投資水準

## 分析の視点

- ✓ 投資が適正な水準であるかを把握するため、1人当たりの投資額を把握する。
- ✓ まず、従業者1人当たりの地域内の投資額を全国や県と比較し、地域内の投資水準を把握する(下図①)。
- ✓ また、夜間人口1人当たりの地域企業の投資額を全国や県と比較し、地域住民の投資水準を把握する(下図②)。

地域内の投資水準は、全国、県、人口同規模地域と比較すると最も低い水準である。

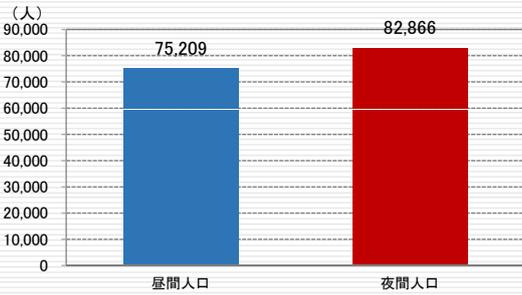
地域住民の投資水準は、全国、県、人口同規模地域と比較すると最も低い水準である。



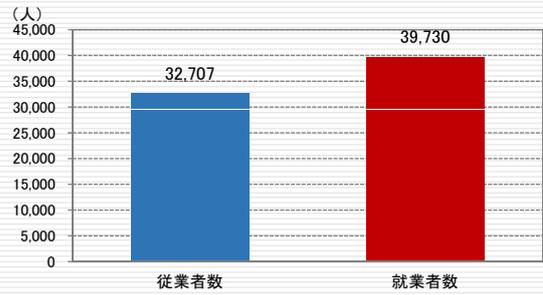
出所:「地域経済循環分析用データ」「国勢調査」より作成

# 6. 結果の概要

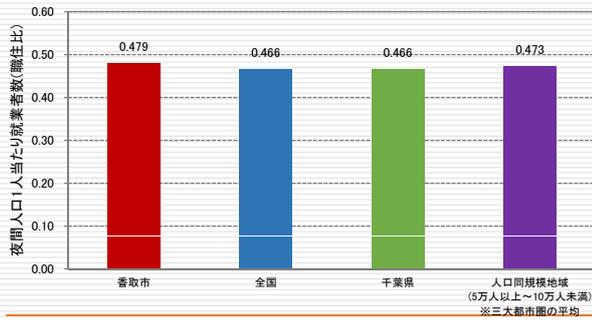
①夜間人口・昼間人口



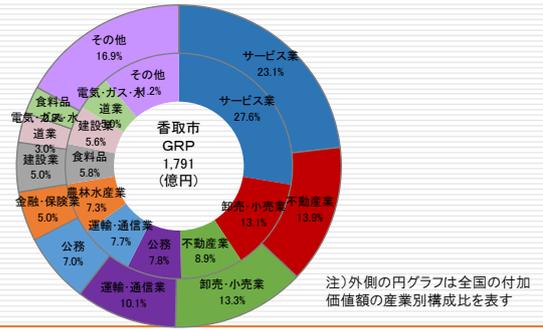
②就業者数と従業者数



③職住比



④付加価値のシェア

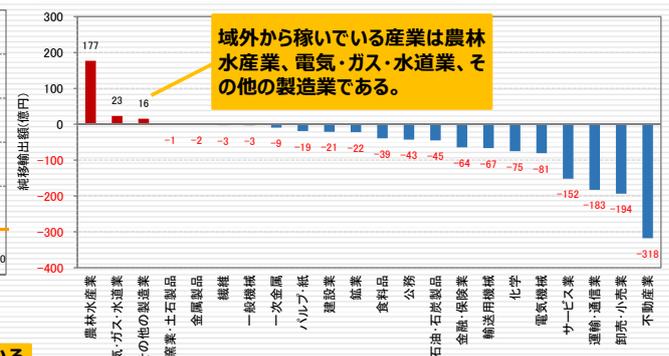


## (1)生産:特化と生産性(香取市)

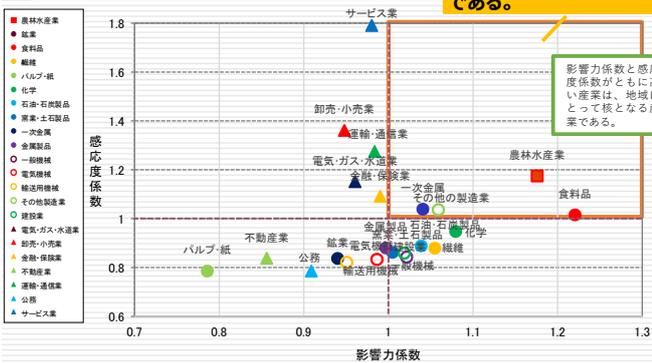
①修正特化係数注(付加価値額ベース)



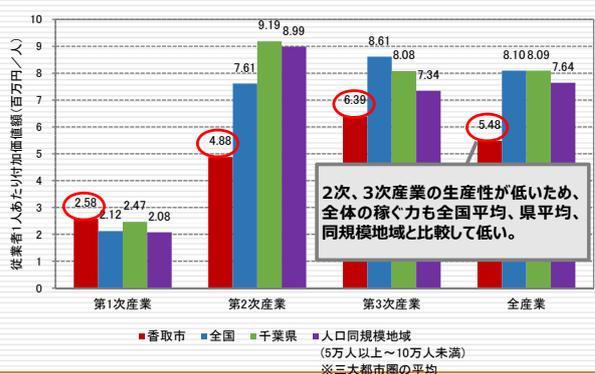
②産業別の純移輸出額



③影響力係数・感応度係数

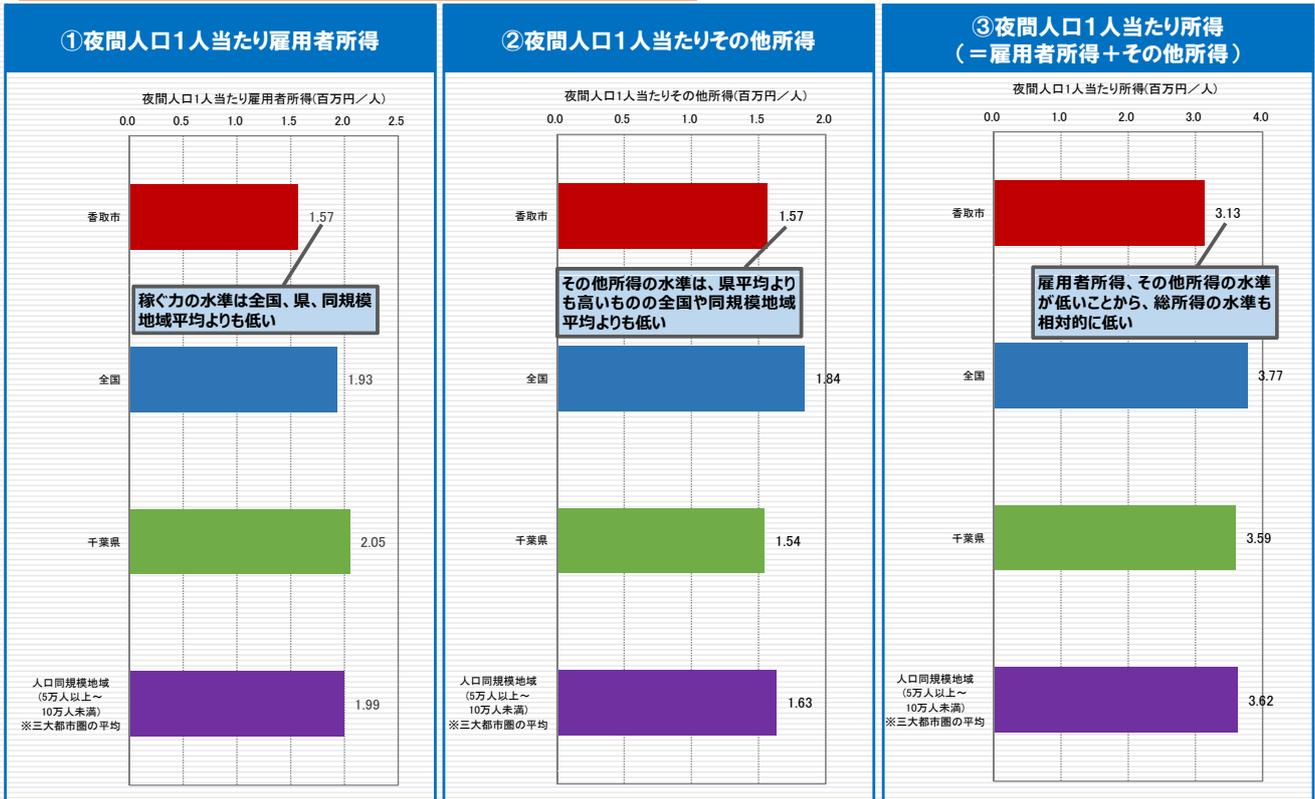


④産業別の労働生産性(付加価値/従業者数)



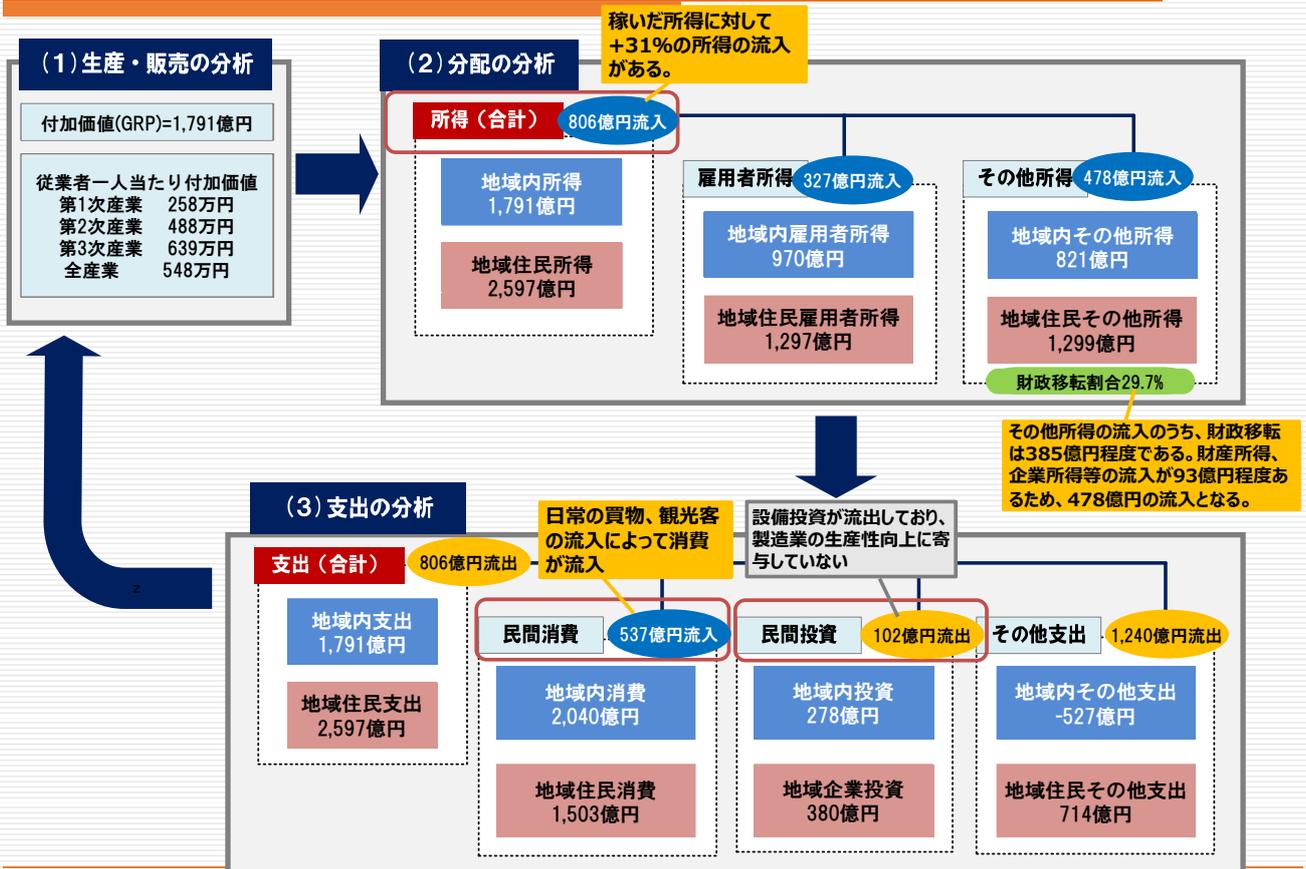
注) 地域の付加価値額の産業別構成比を全国の構成比で除した特化係数について、全国の産業別の輸出入をもとに調整したものと

## (2)分配:住民1人当たり所得(香取市)



注1)雇用者所得は、地域内の生産活動によって生み出された付加価値のうち、労働を提供した雇用者への分配額である。  
 注2)其他所得とは雇用者所得以外の所得であり、財産所得、企業所得、財政移転(交付税、補助金等)等が含まれる。

## (3)地域の所得循環構造(香取市)



## 7. 詳細分析の概要

### (1) 総括

香取市はコメ、サツマイモ等の生産量が多く、第1次産業で所得を稼いでいる。拠点性が低い地域であり、域外への通勤により所得が流入している。

支出段階では、買い物等の日常消費は流出傾向にあるものの、観光等の非日常の流入額が多く、消費全体で見ると域外から所得が流入している。一方投資面では、第2次産業の労働生産性が低いため域外から投資を呼び込めておらず、流出している。このため、結果的に所得が生産に還元されにくい循環構造となっている。

### (2) 生産面：農林水産業が中心で2次、3次産業の生産性は低い

#### ①産業間の取引構造：稼ぐ産業が地域内でサプライチェーンを形成

香取市の地域外から所得を稼いでいる産業は、農林水産業、その他の製造業、電気・ガス・水道業である。このうち、農林水産業は食料品から、その他の製造業は化学から調達しており、裾野は狭いながら域内でサプライチェーンが形成されている。また、食料品が農林水産業から調達しており、6次産業化が進んでいる。

ただし、食料品と化学は純移輸出額がマイナスであるため、稼ぐ産業の需要を地域内で賄いきれていない。

単位：10億円

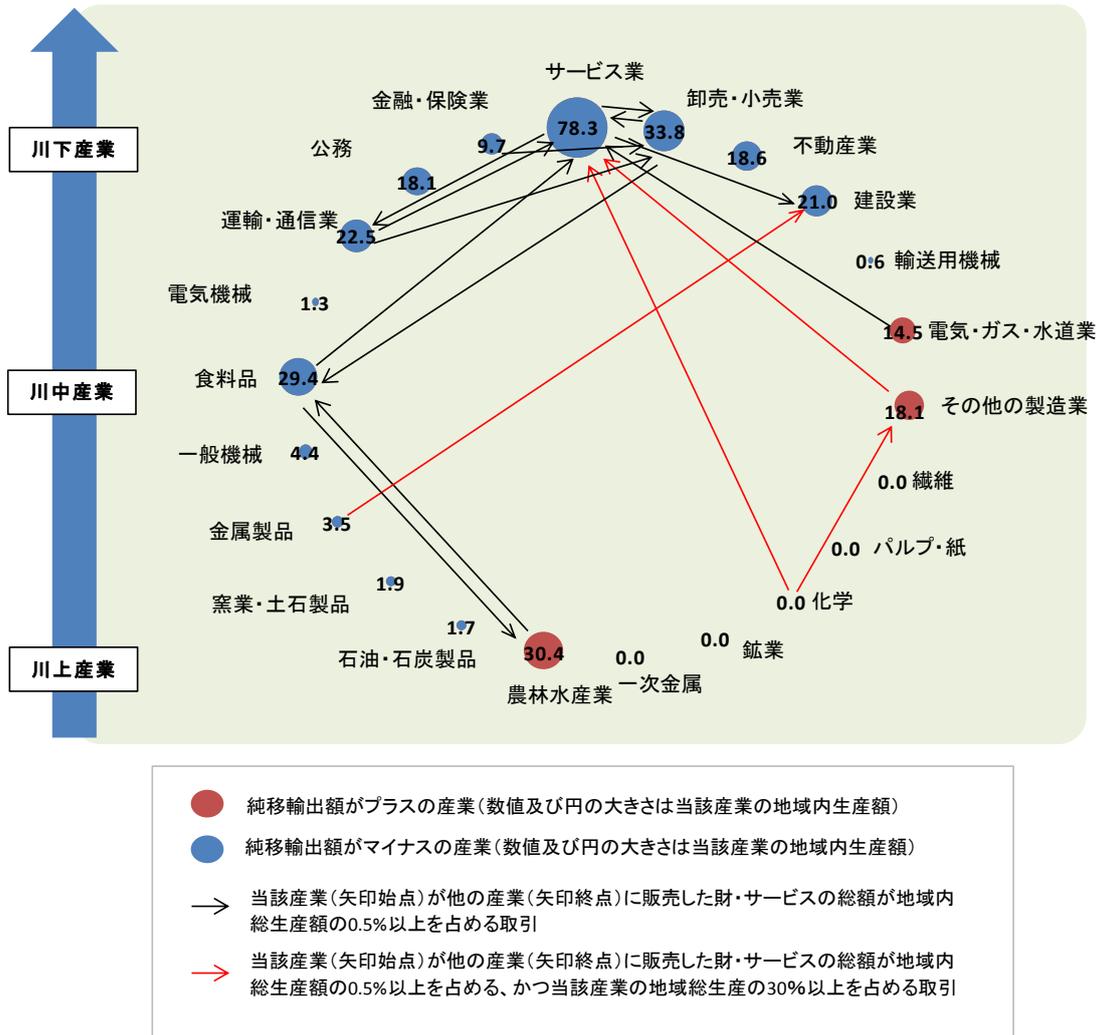


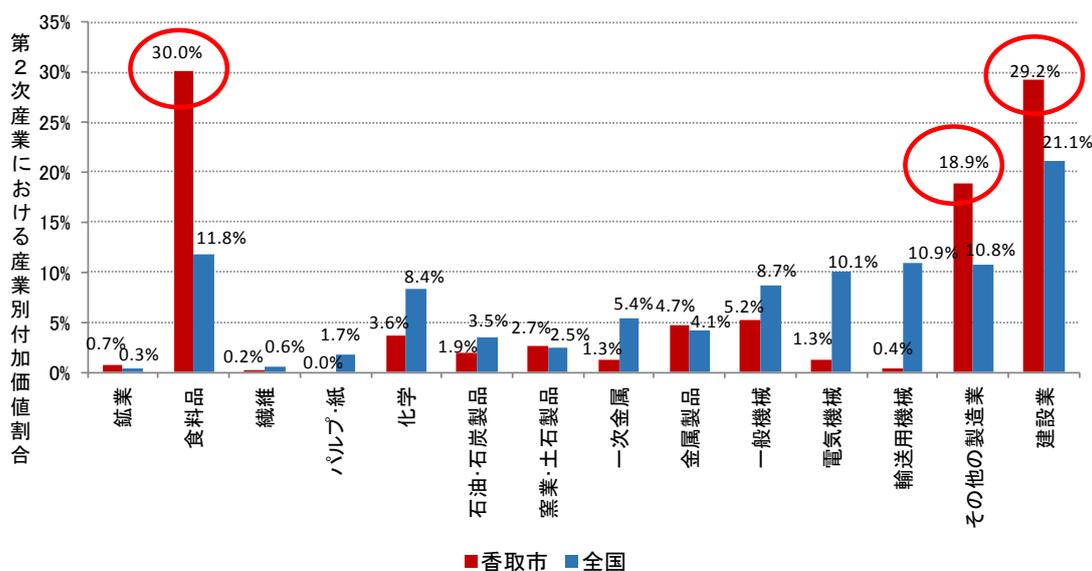
図 7-1 産業間取引構造 (香取市)

②第1次産業：農業が中心でコメ、サツマイモ等の生産量が多い

香取市の農林水産業は付加価値ベースで7.3%とウェイトが全国平均比で大きい。第1次産業の中では農業の割合が高く、主要な生産品はコメ、サツマイモ、鶏肉・鶏卵等である。

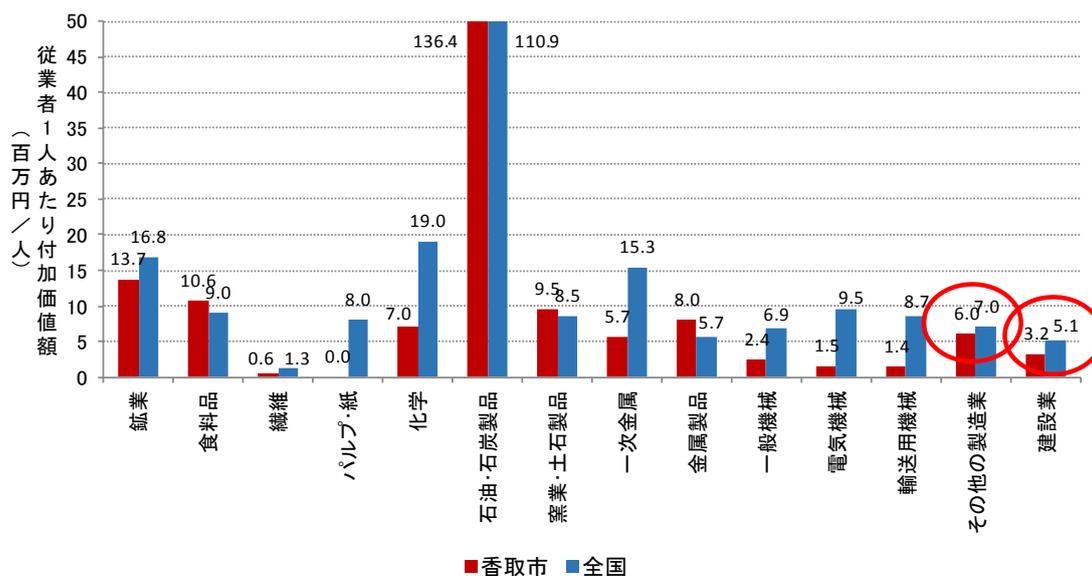
③第2次産業：食料品、建設業、その他の製造業のウェイトが大きい

香取市の製造業は強いとは言えず、付加価値額ベースでは建設業のウェイトが大きい。製造業では、食料品、その他の製造業のウェイトが大きい。しかし、建設業、その他の製造業の労働生産性が相対的に高くないため、香取市の第2次産業の労働生産性は全国水準比で低くなっている。



出所: 地域経済循環 DB より作成。

図 7-2 第2次産業における産業別付加価値額割合 (香取市、全国)



出所: 地域経済循環 DB より作成。

図 7-3 第2次産業の労働生産性 (香取市、全国)

### i) 食料品

香取市は古くから醤油、みりん、日本酒等の醸造業が盛んな地域で、現在も調味料製造業の大規模事業所(ちば醤油株式会社)が立地しており、従業員数割合が高い。他に、畜産食料品製造業、飼料・有機質肥料製造業の従業員数割合が相対的に高いが、これらの事業所規模は小さいため、香取市の食料品全体の労働生産性が低くなっている。

## ii) 建設業

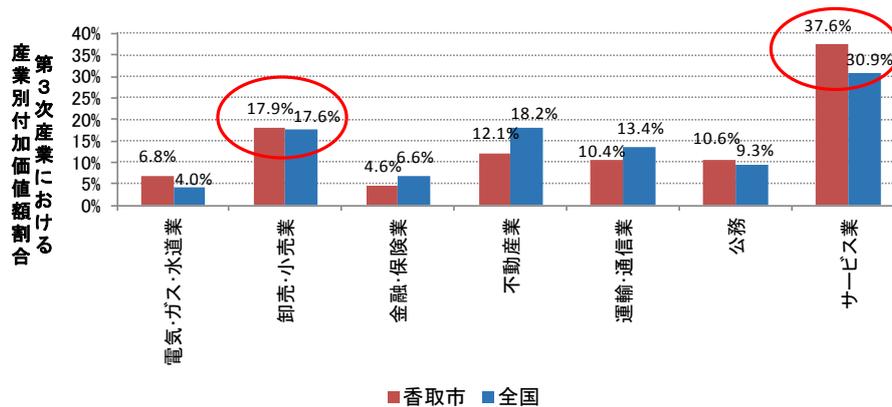
建設業では、土木工事業(舗装工事業を除く)の従業者数割合が高い。しかし、香取市の建設業は、全体的に中小零細企業で構成されているため、香取市の建設業全体の労働生産性は低い。

## iii) その他の製造業

その他の製造業では、プラスチックフィルム・シート・床材・合成皮革製造業(ジェイフィルム株式会社)の大規模事業所があり、従業者数割合が高い。しかし、プラスチックフィルム・シート・床材・合成皮革製造業以外は中小零細企業で構成されているため、その他の製造業全体の労働生産性が低くなっている。

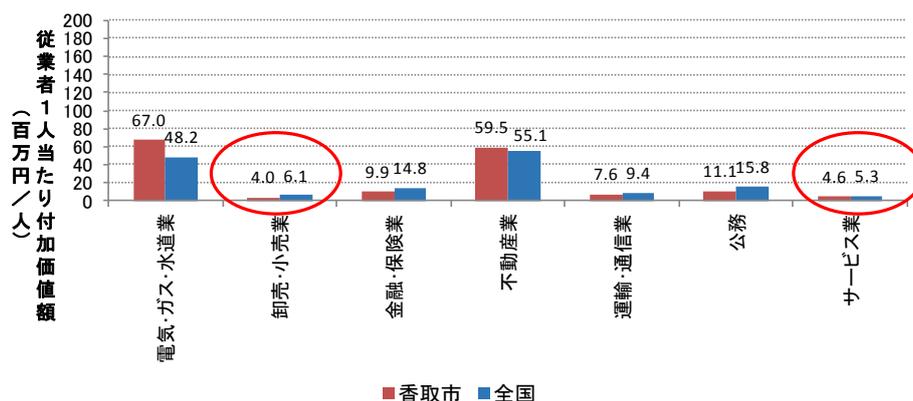
### ④第3次産業：サービス業、卸売・小売業のウェイトが大きい

香取市の第3次産業は、付加価値額ベースではサービス業の割合が最も高く、卸売・小売業が次に高い。卸売・小売業、サービス業の労働生産性は、第3次産業の中で相対的に低い。また、香取市のサービス業、卸売・小売業の労働生産性は全国平均と比較して低い。このため、香取市の第3次産業の労働生産性が低くなっている。



出所: 地域経済循環データベース

図 7-4 第3次産業の産業別付加価値額割合 (香取市、全国)



出所: 地域経済循環データベース

図 7-5 第3次産業における労働生産性 (香取市、全国)

#### i) 卸売・小売業

香取市では卸売・小売業に占める小売業の比率が全国より高い。一般に小売業の労働生産性は卸売業よりも低いため、香取市の卸売・小売業の労働生産性は全国平均比で低くなっている。

#### ii) サービス業

サービス業の中では、老人福祉・介護事業の割合が多い。

香取市の高齢化率は2010年時点で28.0%と高いため、他地域よりも老人福祉・介護事業の事業所の割合が多いと考えられる。老人福祉・介護事業は労働集約的であるため、地域の第3次産業の労働生産性の向上には寄与していない。

### (3) 分配面：域外への通勤により雇用者所得が流入している

#### ①雇用者所得

香取市は夜間人口が昼間人口よりも多い拠点性の低い地域であるため、雇用者所得は地域外への通勤によって327億円流入している。

香取市の従業員1人当たり雇用者所得は約297万円/人であり、就業者1人当たり雇用者所得の327万円/人よりも低い水準である。すなわち、域外への通勤者が持ち帰ってくる所得は、香取市に居住する就業者よりも少ない。しかし、香取市の生産性は低いため、夜間人口1人当たり雇用者所得は全国、県、人口同規模地域と比較して低い。

#### ②その他所得

その他所得は、財政移転による流入に加え、民間の所得移転による流入額が93億円となっている。すなわち、域内に本社を持つ企業への送金等がある程度大きい。

このように、香取市の域内生産活動によって稼いだ所得は、雇用者所得・その他所得ともに域内へ流入し、地域で稼いだ所得が地域住民に還元されているものの、生産性が低いことが課題である。

#### (4) 支出面：民間消費は流入、民間投資は流出している

##### ①日常の消費

香取市内には、5,000 m<sup>2</sup>を超える大規模商業施設が計3店舗立地しているが、買物目的の乗用車トリップ数に着目すると、他市から香取市に訪れるトリップ数よりも、香取市から他市へ向かうトリップ数の方が多く、日常的な買物に伴う消費が市外に流出していると考えられる。

##### ②非日常の消費（観光）

香取市は、観光資源が豊富なため、県内有数の観光地として観光客を呼び込んでおり、非日常的な消費が流入していると考えられる。

上記①②より、香取市の民間消費は537億円流入している。

##### ③投資

香取市の民間投資は102億円流出している。香取市は第2次産業の生産性が低く、全産業におけるウェイトが全国平均比で低いため、域外から設備投資を十分に呼び込めていない。同時に、域外から設備投資が呼び込めていないために、第2次産業の生産性が低迷している状態である。

## 8. 対策の検討

### (1) 対策検討の方針・考え方

地域経済循環分析に基づく経済対策の考え方は、「長所を活かし、短所を補う」ものである。すなわち、地域の短所を局所的に改善するのではなく、長所を活かすことによって、短所(所得循環のボトルネック)を連鎖的に補う施策を検討する。

さらに、経済の生産・分配・支出の3面のうち、短所のない場合には、長所をさらに引き上げることによって全体の労働生産性、最終的には地域住民の所得向上につなげていく。

このような対策検討の方針と、これまでの分析に基づき、香取市の経済対策の方向性(案)は以下のとおりである。

### (2) 香取市の具体的な経済対策の方向性(案)

#### 1) 長所

香取市はコメ、サツマイモ等の生産が盛んで、農林水産業が域外から所得を稼いでおり、労働生産性も全国平均比で高い。また、域内の食料品製造業が農林水産業から調達する取引額が大きく、6次産業化が進んでいる。さらに、豊富な観光資源によって観光客を呼び込んでおり、民間消費が流入している。

#### 2) 短所

第2次産業、第3次産業の労働生産性が低く、夜間人口1人当たり労働生産性も、全国、県、人口同規模地域と比較して最も低い水準である。

また、観光によって民間消費が流入している一方、日常の買物に伴う消費は近隣の稲敷市や神栖市に流出している可能性があるため、観光による呼び込みをさらに強化する必要がある。

さらに人口面から見ると、生産年齢人口が流出しており、高齢化の進行が早い。

#### 3) 対策の方向性

香取市の長所である第1次産業の強さ、観光客の集客力を生かしつつ、産業間で連携を促進し、第2次産業、第3次産業の労働生産性の向上を図る。

##### ①「香取ブランド」の強化・発信による第2次産業の生産性向上

農業における強みや、観光等による域内への消費の流入を活用し、第1次産業、第2次産業の地場製品の売上を拡大して生産性のさらなる向上を図る。

具体的には地域資源を活用し、地域内の産業が連携して市場ニーズに対応していくために、食料品製造業の育成・強化を行うとともに、農商工連携をさらに推進してコメ、サツマイモ等の地域産品を活用し、地場産品の更なる消費拡大に向けた連携の強化を目指す。また、マルチメディアプラットフォーム等をさらに活用し、香取ブランドの発信を強化するとともに、直販店の拡大等により販路を拡大する。

## ②醸造業、農業資源、道の駅等、既存のストック活用による観光振興

歴史文化的背景を持つ醸造業を活かした産業観光や、農家や農業大学校、江戸時代の景観が残る保存地区や水郷、川の駅としての機能も備えた道の駅等、既存の地域資源を活用したニューツーリズムの開発・普及等により、さらなる観光振興を図る。また、こうした観光商品の開発に際し、飲食店等の地元サービス業等との連携強化、専門コーディネーター等新たな観光関連サービス業の創出等を支援し、第3次産業の売上拡大を目指す。

## ③デジタルコンテンツビジネスの創出と他産業のIT化促進

人口集中地区の生産年齢人口が減少していること、第3次産業全体の労働生産性が低いことから、労働生産性が高いデジタルコンテンツビジネス等、情報通信産業等の誘致、創出を促進する。これにより、若い世代のための質の良い雇用を創出し、若い世代の定着、流入を促進するとともに、第3次産業の労働生産性を向上することを目指す。

また、1次産業、2次産業におけるIT化を進めることで、労働生産性を向上させる。

## ④コミュニティビジネスの創出

人口集中地区の生産年齢人口が減少し、高齢者の増加も見込まれていることから、地域の課題を市民自らが解決していくビジネスチャンスが生まれている。

そこで、子育て家庭や高齢者へのサービス提供の推進に向けたコミュニティビジネスの振興、コミュニティビジネスを女性や団塊世代などの新たな就業先として定着させること、等を目指す。

